

目標年度	令和12年度
計画期間	令和3～6年度

山形県果樹農業振興計画書

令和3年3月

山 形 県

目 次

1	山形県果樹農業振興計画の策定にあたって	
(1)	計画策定の趣旨	1
(2)	計画の位置付け	1
(3)	目標年度	1
(4)	主要品目の栽培面積、生産量、産出額の目標	2
2	果樹農業の振興に関する方針	
(1)	労働生産性の向上に向けた生産基盤の強化	3
(2)	多様な担い手の育成・確保、次世代への経営継承対策の推進	3
(3)	果樹農業の持続性を脅かす様々なリスクへの対応力の強化	4
(4)	消費者・実需者の多様化するニーズに即した国内における販売対策の推進	5
(5)	市場のグローバル化に対応した輸出の促進	5
(6)	6次産業化による付加価値の創出	6
(7)	集出荷体制の効率化や施設整備の推進による流通の改善	7
(8)	SDGsの礎となる人と環境にやさしい持続可能な農業の推進	7
(9)	その他必要な事項	7
3	主要品目の振興方針	
(1)	さくらんぼ	8
(2)	西洋なし	10
(3)	りんご	11
(4)	ぶどう	12
(5)	もも	14
(6)	かき	15
(7)	すもも	16
(8)	日本なし	17
(9)	山形らしい多彩な特産果樹	18
4	栽培に適する自然条件に関する基準	19
5	果樹園経営の指標	20
6	参考資料	22

1 山形県果樹農業振興計画の策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

本県の果樹農業は、落葉果樹の生産に適した気候風土のもとで生産者のたゆまぬ努力によって培われてきた高い生産技術によって発展してきた。収穫量日本一のさくらんぼ、西洋なしをはじめとして、ぶどう、りんご、ももなど、「オール山形」体制でのブランド力強化の取組みにより、果樹の産出額全国第4位を誇る全国屈指の果実生産県となっている(R1)。

また、本県産果実は、その品質の高さから、国内外で高く評価されており、観光業や食品産業をはじめとした他の関連産業への経済波及効果も大きい重要な部門と位置付けられている。

一方、生産現場では、生産者の高齢化の進展や後継者不足などによる農業従事者の減少、栽培面積の減少や放任園の増加など、産地の生産基盤が脆弱化してきている。近年、食の多様化や簡便化志向が進展し、生鮮果実の消費量は減少傾向にあるものの、それを上回って生産量が減少している状況である。

また、気候変動による減収や品質低下、鳥獣・病害虫による被害、新型コロナウイルス感染症のまん延など、果樹経営を脅かす様々なリスクも相まって、安定した果樹産地の維持が難しくなっている。

このような状況の中、果樹生産者の経営安定と所得向上、産地の維持・拡大を図っていくには、県並びに関係機関・団体が意識を共有し、生産・流通・消費を巡る内外環境の変化に対応していくことが必要とされている。「魅力ある稼げる農林水産業」を追求していくため、目指すべき方向性の指針として「山形県果樹農業振興計画」を策定する

(2) 計画の位置付け

本計画は、果樹農業振興特別措置法第2条の3第1項によって規定する、都道府県の果樹振興を図るための計画で、令和2年4月に公表された国の果樹農業振興基本方針の他、第4次山形県総合発展計画の農林水産業振興に係る計画と位置付けるとともに、その実行計画である「第4次農林水産業元気創造戦略」に基づいた計画である。

(3) 目標年度

本計画は令和12年度を目標年度として計画するものとし、期間中に産地の状況に大きな変化が生じた場合は、必要に応じて計画の見直しを行う。

(4) 主要品目の栽培面積、生産量、産出額の目標

区分 樹種	現状			目標(令和12年度)					
	栽培面積 (ha) (A)	生産量 (t) (B)	産出額 (億円) (C)	栽培面積 (ha) (a)	生産量 (t) (b)	産出額 (億円) (c)	対比(%)		
							面積 (a/A)	生産量 (b/B)	産出額 (c/C)
さくらんぼ	3,050	14,280	351	3,000	14,200	371	98	99	100
西洋なし	876	18,240	56	820	18,100	60	94	99	107
りんご	2,250	47,420	109	2,100	45,400	105	93	96	96
ぶどう	1,550	17,780	108	1,410	16,200	126	91	91	117
もも	671	8,458	29	725	10,500	38	108	124	131
かき	817	7,890	14	550	5,500	11	67	70	79
すもも	261	1,986	8	280	2,600	11	107	131	138
日本なし	122	1,750	5	105	1,500	5	86	86	100
8樹種 小計*	9,597	115,424	680	8,990	114,000	727	93	99	107
その他 樹種	703	-	4	510	-	3	83	-	75
合計	10,300	-	684	9,500	-	730	92	-	107

※現状(栽培面積:R1、生産量・産出額:H26-30の平均)。

※「小計」は、表中の樹種の合計。「合計」は、農林水産省「耕地及び作付面積統計」から記載。

目標値：生産者(果樹農家)当たり果樹産出額
現状(H26~30平均)590万円→870万円(R12)

2 果樹農業の振興に関する方針

(1) 労働生産性の向上に向けた生産基盤の強化

本県では急傾斜地など作業効率が劣る樹園地が多く、これらの園地では、園地継承が進まずに耕作放棄地になる場合が多いなど、本県果樹の生産基盤の弱体化につながっている。

このため、省力・軽労的な生産方式の導入やスマート農業技術といった革新的な新技術の導入推進、作業効率の良い水田を活用した平坦部への果樹園移行、生産性の低い園地や老木園の改植などにより労働生産性の改善を進める必要がある。加えて、傾斜の緩和、農道・作業道の整備、かん水施設の整備などにより、作業の利便性の向上を図っていく。

これらの生産効率を高める取組みを実践するため、各産地の具体的な目標とそれを実現するための取組みを定めた「果樹産地構造改革計画」に基づき、産地拡大品目の新・改植や小規模な園地基盤整備を推進する。

- ① さくらんぼの平棚・Y字・V字仕立てなど省力・軽労的な生産方式や自動除草機などの機械作業体系の導入推進により、労働生産性の向上を図る。
- ② 全県での研修会等の開催により、産地間の情報交換を円滑にし、「果樹王国やまがた」としての高い生産技術のさらなる向上を目指す。
- ③ ぶどうやりんごの既存の園地では、急傾斜地など作業効率が劣る園が多いことから、水田転換などを活用して、生産性が高く作業効率の良い園地整備することにより、担い手の生産規模の拡大を推進する。
- ④ 各産地が振興する優良品目・品種への改植を契機として園地や生産施設の流動化を促し、地域の中核的な担い手への優良園地の集積を図る。
- ⑤ 各産地協議会では果樹を取り巻く内外環境の変化に対応しながら、産地計画を随時見直すとともに、果樹新興地域における産地協議会の設置と産地計画策定を推進し、新たな果樹産地を育成する。
- ⑥ 園地所有者の高齢化や悪い栽培条件などにより、適正な栽培管理（病虫害防除、除草作業等）が行われなくなった園地については、あえて果樹の樹体を伐採し、他品目などの植栽を行い、鳥獣害や病虫害等の悪影響発生を防止する。

産地計画策定状況（R2.3 現在）

No.	地域振興協議会	策定エリア
1	J Aやまがた果樹産地構造改革協議会	J Aやまがた管内
2	さがえ西村山果樹産地協議会	J Aさがえ西村山管内
3	村山市果樹産地協議会	村山市
4	天童市果樹産地協議会	天童市
5	東根市果樹産地協議会	東根市
6	置賜果樹産地協議会	J A山形おきたま管内
7	鶴岡市果樹産地協議会	鶴岡市
8	酒田市本楯地区果樹産地構造改革協議会	酒田市本楯地区

(2) 多様な担い手の育成・確保、次世代への経営継承対策の推進

本県の果樹経営体数は、平成12年からの15年間で約4割減少している（2015年センサス）。生産者の高齢化や担い手不足が進展する中で、次世代を担う意欲ある生産者の定着・経営発展を推進していくためには、各産地協議会と連携しながら、円滑な園地継承や

次世代継承型園地の整備などを推進していく必要がある。併せて、就農の動機付けから営農定着、発展まで各段階に応じた技術支援が必要とされている。

また、さくらんぼの収穫期間などの農繁期では、短期集中的に労働力が必要となる。このため、質の高い雇用労働力の安定確保を目的とした労働力確保システムを確立していくとともに、高齢者や農作業経験の少ない雇用労働力の効率的な活用を可能とするため農作業安全に配慮した作業環境を確保する。

- ① 担い手への農地の集積や集約化を加速化するため、産地協議会では、地域での話し合いをもとに、将来にわたる地域の担い手を明確にし、「人・農地プランの実質化」として扱うことができる産地計画の策定・見直しを目指す。また、実際に担い手への園地集積・集約化を行う際には、それと合わせた改植の実施等による条件整備も含め、農地中間管理機構を活用して進める。

※人・農地プランの実質化

生産者の年齢階層別の就農や後継者の確保の状況を「見える化」した地図を用いて、地域を支える生産者が話し合い、地域の将来を担う経営体の在り方を決めていく取組み

- ② 新たな担い手の初期投資を軽減し、円滑な経営継承を促進するため、産地協議会と地域の新規就農者受入協議会が連携し、地域の新たな担い手に譲渡・貸与するための園地の再整備や、機械の共同利用の仕組みづくりに取り組み、産地の維持発展を図る。
- ③ 栽培技術や経営手法を習得するための研修などの就農支援制度を活用しながら、農家子弟に加え、U I J ターン者や定年後就農者、異業種からの参入などの多様な担い手の育成・確保を図る。また、関係機関・団体が一体となり、新規就農者に対して就農の動機付けから営農定着、発展までの段階的な支援を実施する。
- ④ 労働力確保に当たっては、子育て中の女性やシニア世代などの地域内の潜在労働力の活用や地域企業の協力体制整備、県域を越えた労働力の確保などに取り組む。
- ⑤ 高齢化している生産者の栽培管理作業を補うための共同作業組織や作業受託組織の育成に加え、民間企業・団体などによる作業受託の取組みを推進する。

(3) 果樹農業の持続を脅かす様々なリスクへの対応力の強化

近年、多発する豪雨や台風による自然災害、新型コロナ感染症拡大の影響による農産物の価格低下など、果樹生産者を取り巻く環境は年々厳しくなっている。また、中山間地帯の荒廃園地の増加などを背景に、果樹園における鳥獣被害の拡大が懸念されている。

これらの様々なリスクに対応し、農業経営の安定化を図るため、気候変動に左右されない栽培技術の普及・定着を推進すると共に、各種セーフティーネットへの加入促進の取組みを進める。

- ① 近年、地球温暖化の進行によるさくらんぼやりんご等の着色不良・遅延、凍霜害の頻発、気候変動による生育不良や病害虫の発生などが問題となっている。

- このため、気候変動に左右されない高品質安定生産を目指し、かん水施設等の基盤整備や栽培技術の導入推進、温暖化に対応した品種の開発、普及・定着に取り組む。
- ② 一方で、気候変動がもたらす栽培適地の拡大を見据えて、かんきつ等の新規導入等を検討する。
 - ③ 鳥獣被害防止に向けては、市町村の被害防止計画に基づき、関係団体及び地域が一体となって、被害防止対策・生息環境管理・捕獲を組み合わせた取組みを推進する。
 - ④ 果樹生産者の経営安定化を図る観点から、気候変動による減収に対するセーフティネットとしての果樹共済制度や、収入減少への対応としての収入保険制度への加入を推進する。

(4) 消費者・実需者の多様化するニーズに即した国内における販売対策の推進

消費者ニーズの多様化や産地間競争の激化、販売価格の伸び悩みなどを踏まえ、他県産地との差別化を図り有利販売につなげるための販売戦略の構築が必要となっている。特に本県は、ぶどうが全国第3位、りんご、ももは第4位の生産県であるにもかかわらず、消費地での知名度が低く市場単価が他主産地より低い現状にある。このことから、消費者や実需者のニーズを的確に把握し、消費地との情報共有を図りながらマーケットインの視点に立った販売によるブランド力の向上を図る。

また、本県は、恵まれた気象条件により様々な品目が栽培できる果樹産地であることから、マスメディア、SNS等を活用し、「果樹王国やまがた」の魅力を積極的に情報発信するとともに、多様な販売チャネルの開拓により、収益性の高い産地づくりを推進する。

- ① 消費者の求める品種の導入や食味を重視した高品質果実生産など、消費者・実需者ニーズに的確に応えられる産地づくりを推進する。
- ② 消費地との情報を図りながらマーケットインの視点に立った生産から販売までの総合的な取組みによるブランド力の向上ブランド戦略を展開する。
- ③ 果物の生産へのこだわりや地域にまつわる「物語」をマスメディアやSNSなどにより発信することで若者層の消費拡大を図る。
- ④ 産地直売やふるさと納税の返礼品対応のみならず、ウィズ/ポストコロナ時代を見据え、オンライン商談やeコマース（電子商取引）などによる多様な販売チャネルの開拓とその活用を促進する。
- ⑤ パッケージセンター機能を持つ施設の活用等により、需要に応じた小分け・詰め合わせ出荷を可能にし、生産者の負担軽減と高付加価値化を推進する。
- ⑥ 在来品種や新たな特産果実では、需要の創出を図りながら安定的な販売体制を構築し地域ブランドの確立を目指す。
- ⑦ 果物の栄養・健康機能等についての理解を深めるための学校給食を有効活用した食育や、体験学習の場としての果樹園の活用などにより本県産果実生産に対する理解を深め、消費拡大を図る。

(5) 市場のグローバル化に対応した輸出の促進

人口減少による市場の縮小に加え、国内の生鮮果物の消費量が減少していることから、今後は、新たな販路として輸出を推進する必要がある。

県産果実の輸出拡大に向けては、重点地域（台湾・中国・香港・韓国・ASEAN）を中心に、これまで経済交流の取組みを進める中で、信頼できる輸出パートナーや関係者との人的ネットワークなど経済交流拡大の基盤が築かれてきており、市場ごとの成果・課題、現地情勢を踏まえた取組みの重点化を図る。

①輸出拡大を図るため、JAグループや山形県国際経済振興機構と連携し、国の農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略や国別輸出アクションプランに基づき、輸出先国の嗜好性や食文化等を踏まえた高品質な果実輸出を推進する。

※農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略

マーケットインの発想に基づく輸出産地の育成・展開を図るため、輸出産地をリスト化し、輸出産地の形成に必要な施設整備等を重点的に支援するもの

②輸出先国に対応した輸出用防除基準の整備や植物検疫条件への対応に加え、「国際水準 GAP（農業生産工程管理）」や「HACCP（食品衛生管理）」などの国際基準の取得による輸出の加速化に向けた環境整備を進める。

③国内育成の新品種が海外へ流出し、大きな問題となっていることから、輸出先における侵害のリスクを勘案し、商標や品種登録などの知的財産保護を進める。

④「山形ラ・フランス」の地理的表示（GI）保護制度登録など、知的財産の保護制度を活用し、海外での模倣防止や「山形ブランド」のPR・販売促進を図る。

⑤「やまがた紅王」など、本県の特性を生かしたオリジナル品種の長距離・長時間輸送に適する技術開発・普及、海外での求評調査、輸出拡大に向けた取組みを推進する

（6）6次産業化による付加価値の創出

果樹産出額全国第4位（H30）であり、多種多様な果樹を生産している果樹産地としての強みを活かし、食品製造業との連携により付加価値の高い、新たな需要を創出する加工品の開発を推進する。また、「日本ワイン」の人気の高まりにより需要が増大している本県産醸造用ぶどうなどの加工原料用果実では、加工業者との連携を密にし、需要に応じた品種の導入と安定的な供給を図っていく必要がある。

さらに、果樹生産者の農業所得の確保を図るため、観光産業との連携した新たなサービスの開発や、生産者自ら、加工業や飲食業、農泊を含む観光業の展開など、果樹生産者の経営の多角化を推進する。

①規格外品の活用だけでなく、果実由来の「甘み」、「香」や「色素」、あるいは「機能性」を活かしたプレミアム加工品や、食の簡便化に対応するための「カットフルーツ」の生産・流通技術を開発する。

②加工用果実については、生産者と実需者のマッチングにより、加工適性に優れた原材料の安定生産・供給体制を構築し、契約栽培を推進する。

③観光産業などとの連携、あるいは生産者自らの経営において、「朝摘みさくらんぼ」や「農園ランチ」、「ワインづくり」などの収穫体験＋αの新たなサービスの開発を推進し、観光客の増加を図る。

④果物の大切さを知ってもらうための食育や、体験学習の場として果樹園の活用などにより本県産果実生産に対する理解を深め、消費拡大を図る。

(7) 集出荷体制の効率化や施設整備の推進による流通の改善

本県産果実の評価を高めブランド力を強化するため、高機能な集出荷・選果施設、貯蔵施設の整備を併せて推進する。また、運送業界の規制強化やトラックドライバーの不足から、流通コストが高まっており、生産者の所得向上を図るため、集出荷施設の再編整備による低コスト輸送体制の整備などを推進する必要がある。

- ①運送業の規制強化による輸送コストの増大に対応するため、地域の集出荷拠点施設の再編、産地連携による混載などを推進する。
- ②出荷規格の簡素化や電子タグ（R E I D）を導入したレンタルパレットの導入による荷積み作業の機械化等により、流通コストの低減を図る。
- ③西洋なしの低温処理、追熟処理施設、ぶどうや日本なしの貯蔵施設、りんご、ももでは高性能選果システムの導入を図り、厳選出荷による高品質果実出荷を促進する。

(8) S D G s の礎となる人と環境にやさしい持続可能な農業の推進

本県果樹生産の持続性を確保するために推進してきた特別栽培や有機農業等の環境保全型農業は、S D G s の観点からその重要性が高まっており、さらなる導入と取組みを支援していく必要がある。

また、消費者が重視する「安全性」の確保や輸出ポテンシャルの向上につながる「国際水準GAP」、「HACCP」などの導入・認証取得を推進する。なお、導入推進にあたっては、行政、関係団体による指導体制の構築・強化を図りながら、生産者、集荷団体などの主体的かつ積極的な取組みを支援する。

- ①安全・安心の確保に向け、農薬の使用基準順守や、農薬ドリフト防止のため適切な農薬散布を徹底する。また、化学農薬だけに依存しないI P M（総合的病害虫・雑草防除）に基づいた栽培体系の構築により、環境に配慮した果樹農業を推進する。
- ②県産果実の安全・安心を裏付けるため、「国際水準GAP」、「HACCP」などへの生産者の理解醸成を図り、導入・認証取得を推進する。
- ③耕畜連携による土づくり、低投入型施肥技術など開発と普及拡大を推進する。
- ④消費者・流通関係者に対し、安全・安心の取組みに関する情報発信、P R を強化することにより、県産果実への安心と信頼感の醸成を図る。

(9) その他の必要な事項

産地のブランド力を高める優れた新品種の開発・育成、地球温暖化やそれに伴う気候変動に対応するため、生産性や品質の変動などに関する調査研究を継続するとともに高品質安定生産技術の開発に取り組む。

また、大規模経営体における雇用労働力の活用を想定し、安全性・作業性の高い仕立て方や、管理技術、機械化などの省力・低コスト化技術の開発を進め、産地競争力の一層の強化を図る。

さらに、品質や収量を向上するための栽培技術や病害虫防除技術の開発、高付加価値化を目指した加工や流通に関する技術開発、さらには機能性に関する研究を進める。

3 主要品目の振興方針

(1) さくらんぼ

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	3,050	3,000 (98%)	「佐藤錦」を中心とした減少が予測されるが、「やまがた紅王」の導入や大規模経営体の育成等を進めることで、現状比98%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	14,280	14,200 (99%)	結実の安定化や大玉品種の導入により反収の向上を図ることで、現状とほぼ同等の生産量を見込む。
産出額 (億円)	351	371 (106%)	消費地のニーズに対応した高品質果実の生産・出荷を進めることで現状比106%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【主要品種の栽培面積目標】

品 種 名	平成 30 年 (現況)		令和 12 年 (目標年)	
	栽培面積	割合	栽培面積	割合
佐 藤 錦	2,199ha	72%	1,950ha	65%
紅 秀 峰	471ha	15%	550ha	18%
山形C12号 (やまがた紅王)	-	-	220ha	7%

【振興方針】

「オール山形」体制で、大玉新品種「やまがた紅王」の導入推進とブランド化に取り組むとともに、気候変動に左右されない高品質安定生産と品質重視の出荷・販売によるブランド力のさらなる強化や、省力・軽労的な次世代型の生産方式の導入による経営規模の拡大及び円滑な経営継承の推進、新興産地の育成による生産基盤の強化を図る。

さらに、国外における競争力強化やインバウンド需要等に対応するため、最先端の技術を駆使した大玉品種の育成に加え、県産さくらんぼの情報発信の強化や輸出の拡大により、世界ブランドの確立を目指す。

- ① 大玉新品種「やまがた紅王」については、「佐藤錦」、「紅秀峰」に続く3本目の柱として、早期のブランド化に向けた生産対策・流通販売対策をオール山形で推進する。
 - ・やまがた紅王ブランド化プロジェクト会議を核とした生産者登録制度の運用により、知的財産の保護を図りながら、県内全域で導入を推進する。
 - ・大玉安定生産技術の開発を進めるとともに、各産地における速やかな普及定着を図る。
 - ・品質基準の順守により、消費者の需要に対応した高品質果実の安定供給を図る。
 - ・果肉が硬く、日持ち性に優れる特長を活かし、東アジア圏等への輸出拡大を図る。

- ② 品種構成は、「佐藤錦」を中心としながら、収穫・出荷期間の労力分散を図るために、「紅秀峰」、「やまがた紅王」等の優良品種の導入を推進する。
- ③ 労力分散に向けた果実品質に優れる早生品種や気候変動に対応した良着色性品種、海外輸出や新たな需要の創出に向けたさらなる大玉品種の開発を推進する。
- ④ 生産基盤の維持・強化に向けた雇用労働力を活用しやすく、経営継承が容易であり、経営規模拡大も可能な次世代型の生産方式の導入を推進する。
 - ・低樹高で軽労働な平棚・Y字・V字仕立て等の導入を推進する。
 - ・ICTなどを活用したスマート農業の実証を行いながら導入を推進する。
 - ・大規模化による作業の効率化や多様な担い手の新規参入を促進するための取組みを推進する。
- ⑤ 様々な分野と連携した多様な労働力の確保に向けた仕組みづくりを進めるとともに、農繁期における県内外の雇用労働力確保対策を強化する。
- ⑥ 気候変動に左右されない高品質生産に向けた「明るい園地づくり」を推進する。
- ⑦ 安定生産及び出荷期間拡大に向けた施設・設備の導入を推進するとともに、結実確保対策の徹底を図る。
 - ・防霜資材、設備（散水氷結法等）の導入を推進するとともに、長期被覆や防風ネットの設置等による受粉環境対策の改善を図る。
 - ・着色期、収穫期の高温による品質低下の軽減に向け、かん水施設の導入を推進する。
 - ・出荷期間拡大のため、加温ハウス、無加温ハウスにおける安定生産を推進する。
 - ・受粉樹の適正な導入に加え、訪花昆虫の適正な導入・管理を推進する。
- ⑧ 新興地域（最上地域・庄内地域）における高品質安定生産技術の定着に取り組むとともに、各地域の特色を活かしたブランド力強化対策を推進する。
- ⑨ 県産さくらんぼのブランド力強化を図るため、品質を重視した出荷規格遵守の取組みをオール山形で徹底するとともに、eコマース等を活用した多様な販売チャネルによる流通を展開する。
- ⑩ 市場や販売店等への正確な産地情報の発信と、販売先のニーズに的確に対応した出荷・販売を実施する。
- ⑪ 首都圏を中心としながらも、西日本および地方中核都市向けの販路拡大に向け、効果的なトップセールスや各種プロモーション活動を強化する。
- ⑫ 台湾、タイ、マレーシア等の主要輸出国・地域に対する「山形さくらんぼ」の輸出を促進するとともに、高級ブランド果実としての定着を図るためのプロモーションを展開する。
- ⑬ 受粉樹として導入されている「紅さやか」や「ナポレオン」の未収穫果実や規格外果実を利用して、食品産業との連携により付加価値の高い商品づくりを推進する。
- ⑭ 観光さくらんぼ園においては、国内需要に加え東アジア等のインバウンド需要への対応を進めるとともに、新たな需要の開拓に向け、観光業界と連携しながらウェブ等を活用した新たなツアー企画等の創出を図る。

(2) 西洋なし

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	876	820 (94%)	「ラ・フランス」の消費拡大を図りながら新植・改植を促進し、栽培面積の減少を緩やかにする。
生産量 (t)	18,240	18,100 (99%)	新樹形への転換、病害対策による樹体維持によって生産性の向上を図り、現状とほぼ同等の生産量を見込む。
産出額 (億円)	56	60 (107%)	生産量の維持や消費拡大・ブランド力強化による販売価格向上により、現状の107%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

「山形ラ・フランス」の地理的表示（G I）保護制度登録を契機とし、食味を重視した「ラ・フランス」の生産・出荷・販売の継続と、消費地での効果的なPR等による消費拡大、生産性の高い産地づくりによって、本県西洋なし産地のブランド力強化を推進する。

- ① ブランド力強化と販売価格の安定化のため、山形県「ラ・フランス」振興協議会を核としたオール山形体制による、G I「山形ラ・フランス」の予冷・産地追熟、販売開始基準日の遵守等の、食味を重視した取組を継続する。
 - ・樹形改善や適正施肥、土づくり、適正着果、適正防除等の栽培管理の定着により、良食味で需要に沿った大きさの果実生産を推進する。
 - ・おいしい「山形ラ・フランス」の出荷・販売に向け、適期収穫や産地追熟を徹底するとともに、販売開始基準日を設定し、「オール山形」で推進する。
 - ・気候変動に対応した高品質・良食味生産技術の開発を図る。
- ② 気候変動下で拡大が危惧される重要病害等の対策と健全な樹体維持により、既存樹の生産性の向上や、幼木の健全な生育を促す。
- ③ 産地の維持と園地の円滑な継承を促進するため、労働生産性が高い新仕立て方の開発と導入を推進する。
- ④ 適正な肥培管理と着果部位の確保によって毎年安定した市場出荷を実施し、信頼性の高い産地づくりを推進する。
- ⑤ G I「山形ラ・フランス」を活用した販売促進活動や、食べ頃判断の周知等の取組を強化し、「山形ラ・フランス」の消費拡大・ブランド力向上を図る。
- ⑥ 「山形ラ・フランス」の輸出を推進するとともに、G I保護制度を活用した模倣防止等により、海外におけるブランド力を高める。
- ⑦ 西洋なしの新たな需要を創出するため、食の簡便化に対応したピールカット等の加工技術の普及や新商品の開発支援等を推進する。
- ⑧ 消費者の多様なニーズに対応するとともに、気象災害リスクと労力の分散のため、「メロウリッチ」等の本県オリジナル品種の導入を推進する。

(3) りんご

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	2,250	2,100 (93%)	面積減少が予測されるが、園地の流動化等により減少を抑制し、現状比 93%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	47,420	45,400 (96%)	面積減少で生産量は減少するが、園地の若返りや生産手法の改善により、2,250 kgの単収を見込む。
産出額 (億円)	109	105 (96%)	市場評価向上対策と高品質果実生産により単価の向上を図り、現状比 96%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

わい性台木等を活用し、早期成園化が可能な生産方式の導入による生産性の向上を推進するとともに、消費者ニーズの高い品種構成への誘導による市場評価の向上を図る。

- ① 雪害に強く、早期成園化が可能な低樹高・省力生産方式や自動式除草機の導入などにより、労働生産性の向上を図る。
- ② 黒星病などの病害対策については、ICTを活用した適期防除や物理的・耕種的防除を組み込んだ総合的防除対策を強化し、高品質安定生産を推進する。
- ③ 生産者の高齢化に対応するため、共同防除組織や作業受託組織の整備を推進する。
- ④ 園地の流動化や優良園地の円滑な継承を促進するため、各地域の産地協議会と農地中間管理機構の連携による取組みを強化する。
- ⑤ 食味を重視したりんごの生産・販売や市場評価の高い品種（系統）の導入等により、本県りんご産地としてのブランド力の向上を図る。
 - ・品種構成は、晩生品種「ふじ」を主体としながら、消費者ニーズの高い品種構成への誘導を推進する。
 - ・品種数が多い中生種においては、「秋陽」、「シナノスイート」などを重点的に取り組むべき品種と位置付け、販売ロットや販売期間の拡大を図り、市場評価向上に努める。
- ⑥ 輸出やインターネット販売等の新たな販路を開拓し、特に輸出では、既存の主要輸出先に加え、国別の嗜好性や食文化等を踏まえた販路開拓により輸出拡大を図る。
- ⑦ 収益性の向上を図るため、規格外品や下位等級品では、食品製造業と連携した付加価値の高い加工食品の開発等を推進する。

(4) ぶどう

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	1,550	1,410 (91%)	既存園のワイン用ぶどう等への転換や、「シャインマスカット」の導入推進等により減少を抑制し、現状比91%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	17,780	16,200 (91%)	面積の減少を抑制するとともに、園地の若返りや生産手法の改善等による反収の向上により、現状比91%の栽培面積を見込む。
産出額 (億円)	108	126 (117%)	「シャインマスカット」等の高単価で販売できる品種の導入推進により単価の向上を図り、現状の117%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【主要品種の栽培面積目標】

	平成30年(現況)		令和12年(目標年)	
	栽培面積	割合	栽培面積	割合
シャインマスカット	174ha	10%	254ha	18%
デラウェア	904ha	59%	761ha	54%
ワイン用ぶどう	417ha	26%	497ha	35%

注：デラウェアには早生デラも含む。

ワイン用ぶどうには、加工利用の生食用品種も含む(シャインマスカット、デラウェアと重複あり)。

【振興方針】

消費者嗜好の高い「シャインマスカット」を中心とした大粒種において、導入促進と品質の高位平準化や、戦略的な販売展開によるブランド構築を図る。併せて省力的な栽培が可能で需要が高まるワイン用ぶどうの導入により、産地の活性化に取り組む。

① 「シャインマスカット」のブランド力の向上を図る。

- ・既存品種からの「シャインマスカット」への転換や新植、新興地域への導入推進による産地拡大を推進する。
- ・品質の高位平準化のための、新規栽培者等を対象とした省力的な高品質生産技術の普及・定着を促進する。
- ・高品質生産と遅場産地を生かした長期貯蔵による冬季出荷の推進によって、ブランドの向上を図る。
- ・収益性の向上を図るため、直売所や輸出等の多様なチャンネルでの販売を推進する。

② 日本一の生産量を誇る「デラウェア」の産地維持を図る。

- ・出荷規格の簡素化やパッケージセンター等の施設を活用した出荷関連作業の効率化等により、生産者の負担軽減とコスト低減を図る。
- ・これまで築き上げてきた「デラウェア生産量日本一」であるブランド力を生かし、生食用に加え、市販加工品の開発・販売により、年間を通して全国に情報発信していくとともに、産地の活性化を図る。

- ・「デラウェア」のより省力的な有核栽培（ワイン用）への転換や、軽労的な短梢栽培（生食）技術の導入を推進する。
- ③ ワイン用品種は省力的な栽培が可能であるため、大規模生産者等におけるワイン用品種への一部転換やワイナリー自らによるワイン用品種の導入・栽培を推進する。
 - ・生産者の収益性向上を図るため、ワイナリーと産地側の情報共有を通じ、需要に沿った、かつ地域の気象・土壌条件に適合したワイン用ぶどう品種の導入を推進し、安定生産を支援する。
 - ・省力栽培可能なワイン用ぶどうにおける、早期多収・高品質栽培技術を開発し、導入を推進する。
 - ④ 消費者ニーズの高い皮ごと食べられる着色良好な赤系の大粒品種の開発を推進する。
 - ⑤ 生産基盤を強化するため、既存園地の改植を推進するとともに、リース農場方式等により生産者の規模拡大を支援し、ぶどう産地の活性化を図る。

(5) もも

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	671	725 (108%)	リレー出荷を可能にする品種の導入や団地化を図ることで、現状対比 108%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	8,458	10,500 (124%)	面積の増加に加え、生産手法の改善等により、安定した反収を確保することで、現状対比 124%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	29	38 (131%)	生産量の拡大と高品質果実生産により現状対比 131%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【品種構成の目標】

	平成 30 年（現況）		令和 12 年（目標年）	
	栽培面積	割合	栽培面積	割合
早生品種	5ha	1%	7ha	1%
中生品種	234ha	35%	260ha	36%
晩生品種	403ha	60%	435ha	60%
加工品種	24ha	4%	23ha	3%

【振興方針】

8月上旬～9月中旬までのリレー出荷を可能とする補完品種の導入を推進するとともに、立枯れ症とせん孔細菌病対策の徹底による生産性向上を図る。さらに、団地化による生産力向上と消費地でのPR強化により、「北の桃源郷」ブランドの確立を図る。

- ① 品種構成は、消費者嗜好の高い中生品種「あかつき」及び晩生品種「川中島白桃」を核として、その前後を補完する優良品種の導入を積極的に推進する。
- ② 栽培面積の拡大を円滑に進めるため、ハイブリッド仕立てや剪定方法の改善等、立枯れ防止対策の普及定着を図る。
- ③ 生産基盤を強化するため、収益性の低い品目や水田からの転換及び団地化を推進し、導入に当たっては、安定生産のため排水、防風対策の徹底を図る。
- ④ 好適樹相への誘導、適正な着果制限による大玉生産や着色管理、適正な病虫害防除、適期収穫等の基本技術を励行し、高品質果実生産を推進する。特に、せん孔細菌病については、物理的・耕種的防除を組み込んだ総合的防除方法の普及を図る。
- ⑤ リレー出荷と販売ロットの拡大、及び「北の桃源郷」の名称を活用した戦略的な販売PRにより、県産もものブランド化を推進する。
- ⑥ 収益性の向上に向け、徹底した品質管理による輸出の拡大とアフターコロナに対応したインターネット販売等の新たな販路開拓を図る。
- ⑦ 加工専用品種については、実需者ニーズに対応するため、栽培面積の維持を図る。

(6) かき

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	817	550 (67%)	栽培面積は減少傾向だが、収益性の向上、低樹高栽培等の導入により減少を抑制し、現状対比 67%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	7,890	5,500 (70%)	面積が減少することで生産量は減少するものの、園地の若返りや生産手法の改善等により、1,000kgの反収を見込む。
産出額 (億円)	14	11 (79%)	付加価値の高い果実・加工品の生産により単価の向上を図り、現状対比 79%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

低価格・低収益と老木化、生産者の高齢化による生産性の低下から栽培面積が減少している。そこで、大玉果実の安定生産、甘柿導入、貯蔵による12月販売、干し柿、樹上脱渋品など高付加価値商品の生産販売と輸出拡大により所得向上を推進する。また、V字仕立て等新型樹形や省力栽培技術導入により労働生産性の向上を図る。

- ① 品種構成は、「平核無」を中心とするものの、「刀根早生」等の優良早生種の導入を進めるとともに、温暖化を踏まえて「甘秋」「太秋」等の甘柿の導入を図る。
- ② 生産性の向上を図るため、果樹経営支援対策事業等を活用した老木園の改植を推進するとともに、雹害などの気象災害を回避する対策や病虫害防除の徹底を図る。
- ③ V字仕立てなど低樹高で軽労的な樹形や機械の導入により労働生産性の向上と大規模化を図るとともに、防除や剪定などの共同作業組織、作業受託組織の育成と既存組織の取組みを強化する。
- ④ 販売価格の向上を図るため、摘らいや早期摘果の徹底による大玉高品質果実生産を推進するとともに、M階級果実の加工利用（干し柿等）を促進する。
- ⑤ 収益性の向上に向け、12月販売（貯蔵販売）や樹上脱渋等の付加価値の高い果実生産、プレミアム商品の開発を行うとともに、輸出の拡大を推進する。
- ⑥ 干し柿等の加工品づくりを積極的に推進し、新たな加工組織づくりや、加工向け果実の省力的生産手法の導入、干し柿を一次加工品として活用した新たな加工品開発を進める。
- ⑦ 園地の流動化と優良園地の円滑な継承を促進するため、各地域の産地協議会と農地中間管理機構の連携による取組みを強化する。

(7) すもも

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	261	280 (107%)	新品種を主体に面積の拡大が期待できることから、現状比 107%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	1,986	2,600 (131%)	面積の増加に加え、生産手法の改善等により、単収の増加を図ることで、現状比 131%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	8	11 (138%)	栽培面積、生産量の拡大により現状比 138%の産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は、現状との対比值。

【振興方針】

本県すもも産地の立地条件を活かせる優良品種等の導入により、長期出荷体制を構築するとともに、良食味果実生産を推進し、市場評価の向上と生産拡大を図る。

- ① 品種構成は、「大石早生」、「ソルダム」、「秋姫」を中心としながら、本県民間育成品種の有望大玉晩生種を積極的に導入し、7～10月までの長期出荷体制の構築によるブランド化を推進する。
- ② 効果的な受粉樹の選定・導入、受粉環境の改善など結実確保対策の徹底により、気候変動に左右されない高品質安定生産を推進する。
- ③ 流通・小売段階での日持ち性を考慮しつつ、食味を重視した収穫を推進し、本県産すももの評価向上に努める。
- ④ 生産性の向上に向け、老木園等の低生産性園地の改植を推進する。
- ⑤ 黒斑病、シンクイムシ類などの主要病害虫に対しては、物理的防除や交信かく乱剤の使用など、I P M（総合的病害虫・雑草防除）に基づいた化学農薬だけに依存しない病害虫防除体系を推進する。

(8) 日本なし

【生産目標】

項目	現状	目標 (R12)	目標設定の考え方
栽培面積 (ha)	122	105 (86%)	栽培面積は減少傾向だが、収益性の向上、経営規模の拡大により、現状比 86%の栽培面積を見込む。
生産量 (t)	1,752	1,500 (86%)	老木化等により反収は減少傾向だが、改植等の推進により、現状比 86%の生産量を見込む。
産出額 (億円)	5	5 (100%)	高品質生産の推進等による付加価値の向上により、現状並みの産出額を見込む。

※現状（栽培面積：R1、生産量・産出額：H26-30の平均）。（ ）内の数字は現状との対比値

【振興方針】

高品質果実の安定生産や優良品種の導入により、庄内地域を中心にブランド力の高い産地形成を推進する。

- ① 品種構成は、「幸水」、「豊水」を中心としながら、市場評価の高い「あきづき」と「南水」の導入を推進するとともに、「甘太」等新たな有望品種の導入を推進する。
- ② 生産者の高齢化等に対応するため、品種構成の見直しによる、摘花、人工受粉、収穫に係る労力の分散を図る。
- ③ 気候変動等によるリスクに対応するため、降雹による傷果発生防止に向けた施設整備（多目的防災網）を推進するとともに、黒星病防除対策の普及・定着を図る。
- ⑤ 摘花や人工受粉の励行、適正着果と適期収穫等により高品質果実の安定生産を図るとともに、土づくりや老木園の改植等により、生産性の向上を図る。
- ⑥ 園地の流動化と優良園地の円滑な継承を促進するため、各地域の産地協議会と農地中間管理機構の連携による取組みを強化する。
- ⑦ 収益性の向上を図るため、市場出荷に加え、産地直売や観光果樹園など多様な流通チャネルの開拓を推進するとともに、観光イベントなどと連携した有利販売や地場消費の拡大を推進する。

(9) 山形らしい多彩な特産果樹

本県では、豊かな自然条件を活かし、多彩な品目の果樹が栽培されている。これらの特産果樹については、それぞれの特性を生かしながら生産振興を図っていく。

- ①山ぶどう、あけび、さるなしなどの特産果樹では、品目が持つ特性と山形独特の加工品・食文化と組み合わせた情報発信により安定的な販売体制を構築する。
- ②ブルーベリー、ラズベリー、いちじく、キウイフルーツなどは、観光果樹園や産地直売など多様な販売チャンネルによる収益性を確保する。
- ③地球温暖化の影響から、すだちなどの香酸かんきつも栽培可能となっていることから、地域の観光産業や飲食業との連携により、新たな需要開拓と地域活性化につなげる。

4 栽培に適する自然条件に関する基準

高品質な果実生産を確実に図る観点から、果樹栽培に適する地域における平均気温、冬期の最低極温、低温要求時間及び降水量に関する基準、並びに気象被害を防ぐための基準を果樹の種類ごとに設定する。

なお、やむを得ず基準を満たさない地域において栽培する場合には、あらかじめ十分な対策を講じ、気象被害の発生を防止し、高品質な果実生産が確保されるよう努めることが重要である。

区分 樹種	平均気温		冬期の 最低極温	低温 要求時間	気象被害を 防ぐための基準
	年	4/1～ 10/31			
さくらんぼ	7℃以上 15℃以下	14℃以上 21℃以下	-15℃以上	1,400 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
西洋なし	6℃以上 14℃以下	13℃以上	-20℃以上	1,000 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
りんご	6℃以上 14℃以下	13℃以上 21℃以下	-25℃以上	1,400 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、平年の最大積雪深が概ね 2m(わい化栽培においては概ね 1.5m) 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
ぶどう	7℃以上	14℃以上	-20℃以上 (欧州種については -15℃以上)	「巨峰」については 500 時間 以上	枝枯れや樹の倒壊を防ぐため、凍害及び雪害を受けやすい北向きの傾斜地での植栽は避けること。 着色系品種については、水回り期から収穫期の平均気温が 27℃以上の場合、環状剥皮処理等の着色対策を施す。 欧州種については、4～10 月の降水量が 1,200mm 以下。
もも	9℃以上	15℃以上	-15℃以上	1,000 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。 病害を防ぐため、強風を受けやすい園地での植栽は避けること。
かき	渋柿	10℃以上	16℃以上	800 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 枝折れを防ぐため、新梢伸長期において強風を受けやすい園地での植栽は避けること。 新梢の枯死を防ぐため、発芽・展葉期において降霜が少ないこと。
	甘柿	13℃以上	19℃以上		
すもも	7℃以上	15℃以上	-18℃以上	1,000 時間 以上 (台湾系品種を除く)	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。
日本なし	7℃以上	13℃以上	-20℃以上	「幸水」については 800 時間 以上	枝折れや樹の倒壊を防ぐため、最大積雪深が概ね 2m 以下であること。 花器・幼果の障害を防ぐため、蕾から幼果期において降霜が少ないこと。

- (注) 1 果樹農業振興基本方針（令和 2 年 4 月 30 日、農林水産省）より抜粋。
 2 一般に普及している品種及び栽培方法によるものとする。
 3 低温要求時間とは、当該地域の気温が 7.2℃以下になる期間の延べ時間である。
 4 上記の基準については、最近 20 年間の気象観測記録により評価する。

5 果樹園経営の指標

(1) 目標とすべき10a当たりの生産量及び労働時間

		成園10a当たりの生産量 (kg)	成園10a当たりの労働時間 (時間)	労働時間当たりの収穫量 (kg/時間)	摘 要
さくらんぼ		600	448	1.3	雨除け栽培
		700	462	1.5	Y字仕立て、雨除け栽培
西洋なし		3,500	226	15.5	
りんご		3,000	204	14.7	普通樹形
		4,000	105	38.0	新わい化栽培、加工
ぶどう	小粒種	1,600	363	4.4	無加温施設栽培、 無核化栽培、長梢剪定
	大粒種	1,600	312	5.1	雨除け栽培 無核化栽培、短梢剪定
	ワイン用	1,200	145	8.3	露地栽培、垣根仕立て
もも		3,250	175	18.5	
かき		2,800	89	31.4	省力樹形 (樹体ジョイント仕立て)
すもも		2,000	184	10.9	
日本なし		5,000	204	24.5	省力樹形 (樹体ジョイント仕立て)

- (注) 1 果樹農業振興基本方針 (R2. 4. 30 農林水産省) 及び第4期山形県農林水産業元気創造戦略営農類型経営指標 (令和3年3月) より抜粋 (一部修正)。
- 2 さくらんぼは「佐藤錦」、りんごは「ふじ」、西洋なしは「ラ・フランス」、ぶどうのうち小粒系は「デラウェア」、大粒系は「シャインマスカット」、ももは「あかつき」、かきは「平核無」、すももは「秋姫」、日本なしは「幸水」によるものとする。
- 3 10a当たり生産量及び労働時間は成園に係るものである。
- 4 労働時間については、出荷 (選別・包装・荷造りの作業や、共選場・共販場への搬出) に係る時間を算入している。

(2) 地域を牽引する競争力の高い果樹経営体モデル

営農類型	経営規模	販売金額・農業所得等	主な留意事項等
<p>さくらんぼ+もも+りんご</p> <p>【果樹専作】</p>	<p>経営規模 = 2.4ha</p> <p>さくらんぼ = 0.6ha</p> <p>もも = 1.0ha</p> <p>りんご = 0.8ha</p>	<p>主たる経営者の農業所得 8,159 千円</p> <p>◇販売金額 31,704 千円</p> <p>◇農業所得 16,318 千円</p> <p>・基幹的従事者 2 人</p> <p>◇支払労務費 2,155 千円</p> <p>・補助的従事者 10 人</p>	<p>●スマート農業技術(ロボット草刈り機)</p> <p>●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立、りんご半わい化開心形仕立て)</p> <p>○さくらんぼ5割、もも3割、りんご3割を直売・贈答用で販売</p> <p>○主な適応地域: 村山、置賜</p>
<p>西洋なし+ぶどう+さくらんぼ</p> <p>【果樹専作】</p>	<p>経営規模 = 1.8ha</p> <p>西洋なし = 1.0ha</p> <p>ぶどう(デラウェア) = 0.2ha</p> <p>(大粒系) = 0.3ha</p> <p>さくらんぼ = 0.3ha</p>	<p>主たる経営者の農業所得 8,775 千円</p> <p>◇販売金額 31,891 千円</p> <p>◇農業所得 17,550 千円</p> <p>・基幹的従事者 2 人</p> <p>◇支払労務費 1,484 千円</p> <p>・補助的従事者 8 人</p>	<p>●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立)</p> <p>○西洋なし3割、大粒系ぶどう5割、さくらんぼ5割を直販・贈答用で販売</p> <p>○主な適応地域: 村山、置賜</p>
<p>ぶどう+もも+りんご</p> <p>【果樹専作】</p>	<p>経営規模 = 2.1ha</p> <p>ぶどう(大粒系) = 0.6ha</p> <p>もも = 0.9ha</p> <p>りんご = 0.6ha</p>	<p>主たる経営者の農業所得 9,823 千円</p> <p>◇販売金額 32,839 千円</p> <p>◇農業所得 19,646 千円</p> <p>・基幹的従事者 2 人</p> <p>◇支払労務費 894 千円</p> <p>・補助的従事者 4 人</p>	<p>●スマート農業技術(ロボット草刈り機)</p> <p>●省力・軽労化新技術(りんご半わい化開心形仕立て)</p> <p>○ぶどう5割、もも3割、りんご3割を直売・贈答用で販売</p> <p>○主な適応地域: 村山、置賜</p>
<p>さくらんぼ+ぶどう+水稲</p> <p>【果樹+水稲】</p>	<p>経営規模 = 2.1ha</p> <p>さくらんぼ = 0.3ha</p> <p>ぶどう(デラウェア) = 0.3ha</p> <p>(大粒系) = 0.3ha</p> <p>水稲 = 1.2ha</p>	<p>主たる経営者の農業所得 5,005 千円</p> <p>◇販売金額 18,824 千円</p> <p>◇農業所得 10,009 千円</p> <p>・基幹的従事者 2 人</p> <p>◇支払労務費 974 千円</p> <p>・補助的従事者 7 人</p>	<p>●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立)</p> <p>○さくらんぼ5割、大粒系ぶどう5割を直販・贈答用で販売</p> <p>○水稲は共同乾燥調製施設利用。主要機械は4戸共同利用</p> <p>○主な適応地域: 村山、置賜</p>
<p>さくらんぼ+水稲+なす+飼料用米</p> <p>【果樹+水稲+野菜】</p>	<p>経営規模 = 4.8ha</p> <p>さくらんぼ = 0.3ha</p> <p>水稲 = 2.8ha</p> <p>なす = 0.2ha</p> <p>飼料用米(直播) = 1.5ha</p>	<p>主たる経営者の農業所得 5,532 千円</p> <p>◇販売金額 13,332 千円</p> <p>◇農業所得 5,532 千円</p> <p>・基幹的従事者 1 人</p> <p>◇支払労務費 1,122 千円</p> <p>・補助的従事者 3 人</p>	<p>●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立)</p> <p>○さくらんぼ5割を直販・贈答用で販売</p> <p>○水稲、飼料用米は共同乾燥調製施設利用。主要機械は3戸共同利用</p> <p>○主な適応地域: 村山、置賜</p>
<p>さくらんぼ+りんご+水稲+飼料用米</p> <p>【果樹+水稲】</p>	<p>経営規模 = 5.1ha</p> <p>さくらんぼ = 0.2ha</p> <p>りんご = 0.4ha</p> <p>水稲 = 3.0ha</p> <p>飼料用米(直播) = 1.5ha</p>	<p>主たる経営者の農業所得 5,338 千円</p> <p>◇販売金額 12,945 千円</p> <p>◇農業所得 5,338 千円</p> <p>・基幹的従事者 1 人</p> <p>◇支払労務費 641 千円</p> <p>・補助的従事者 2 人</p>	<p>●スマート農業技術(りんごロボット草刈り)</p> <p>●省力・軽労化新技術(さくらんぼY字仕立、りんご半わい化開心形仕立て)</p> <p>○さくらんぼ5割、りんご3割を直販・贈答用で販売</p> <p>○水稲、飼料用米(はえぬぎ)は共同乾燥調製施設利用。主要機械は2戸共同利用</p> <p>○主な適応地域: 村山、置賜</p>

資料：第4期山形県農林水産業元気創造戦略営農類型経営指標（令和3年3月）より抜粋（一部修正）
 主な留意事項等の●は、スマート農業技術や省力・軽労化技術等の新技術を導入

参 考 资 料

1 奨励品種、優良品種、特定・試作品種一覧

(令和3年3月1日現在)

作 目 名		奨 励 品 種	優 良 品 種	特 定・試 作 品 種
りんご		ふじ	昂林	王林
		つがる	秋陽	シナノゴールド
			ファーストレディ	紅みのり*
			シナノスイート	錦秋*
				はるか*
ぶどう	生食用	デラウェア 巨峰 ピオーネ シャインマスカット	スチューベン 高尾	安芸クイーン ロザリオピアンコ サニールージュ* クイーンニーナ*
	加工用		マスカットベリーA メルロ シャルドネ	
なし	西洋なし	ラ・フランス	バラード シルバーベル オーロラ	バートレット マルグリット・マリーラ メロウリッチ
	日本なし		幸水 豊水	あきづき* 南水* 甘太*
もも	生食用	川中島白桃 あかつき		ゆうぞら 黄金桃 だて白桃* 美晴白桃 さくら白桃* 青空むすめ* まどか
	加工用		大久保	もちづき
おうとう		佐藤錦 紅秀峰	ナポレオン 紅さやか 山形C12号 (やまがた紅王)	南陽 紅てまり* 紅きらり* 紅ゆたか*
かき		平核無	刀根早生	甘秋*
うめ			甲州最小 白加賀	豊後 谷沢梅
くり			丹沢 筑波	ぼろたん*
すもも			大石早生 ソルダム 秋姫	太陽 紅りょうぜん* 貴陽* 恋花火* サンセプト* サンルージュ* サマーエンジェル*

注1)ピオーネは無核栽培とする。

注2) 特定品種: 特定の地域や用途を限定すれば優良と認められる品種、または労力分散及び出荷時期の面から補完的に組合せる品種。

試作品種: 試験研究機関等における成績が優良で、今後の普及が見込まれるが、さらに適応性、経済性の検討を要する試作的品種(*印)。

2 本県における果樹の来歴

(1) さくらんぼ

さくらんぼの栽培は、明治8年内務省勸業寮より苗木の交付を受け、山形市、米沢市等で試作したのが栽培の始まりといわれている。

当時、全国的に試作されたが、開花期の霜害と収穫期の降雨による実割れ等のためほとんど失敗し、霜害と台風の被害が比較的少ない本県のみが好成績をあげていた。

その後、初夏にさきがけて収穫される果物としての商品価値が認められ、次第に栽培が普及した。明治18年、同41年、大正13年には諸外国より新品種を導入して、県立農事試験場で指定試験等が行われ、新品種の普及に努めた結果、栽培面積がしだいに増加していった。

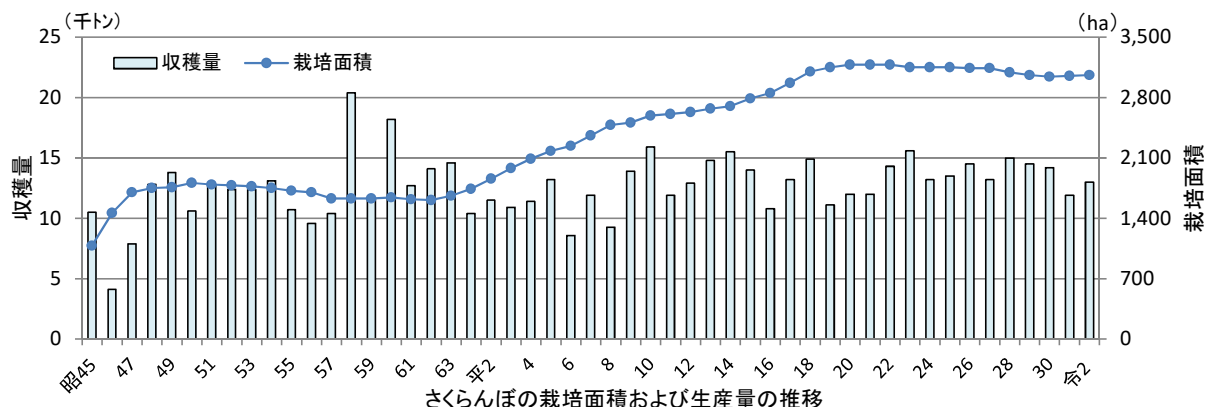
第2次世界大戦前の栽培面積は、明治33年には29.9ha程度であったが、明治36年に奥羽本線が新庄まで開通し、鉄道による長距離輸送が可能となったことから急激に増加した。明治44年には79.4ha、昭和8年には324.0haとなり、戦前最高の2,146tの生産量をあげるようになった。

第2次世界大戦中には食糧増産のための強制伐採が行われ、伐採による生産量の落ち込みが回復するまでには時間がかかったが、昭和31年によりやく戦前並みに回復し、加工工場の増設とともにこの頃から生産量が急増した。

戦後、本県のさくらんぼは、加工を主体に栽培面積が増加したが、缶詰需要が落ち込んでいった昭和40年代から生食向けの比率が徐々に高まり、昭和63年頃には、それまで中心品種であった「ナポレオン」より、「佐藤錦」の栽培面積が多くなった。また、昭和50年代頃から雨除け栽培が本格化し、着色、食味に優れ、生食に適した完熟さくらんぼの生産が可能になったことにより、雨除け施設の普及拡大に伴って、さらに「佐藤錦」の栽培面積が増加した。

昭和53年から米国産、57年からカナダ産、60年からニュージーランド産のさくらんぼの輸入が解禁となり、平成4年からは輸入期間の制限も撤廃された。国外との競合が懸念されたものの、鮮紅色に完熟した食味の良い国産さくらんぼの方が日本人の嗜好に合っていることもあり、赤黒い外国産さくらんぼと差別化された高級果物としての評価が定着している。

近年は、「紅秀峰」等を中心としたさくらんぼの輸出が増えており、海外（台湾、香港等）でも高く評価されている。さらに、令和2年3月には「やまがた紅王（品種名：山形C12号）」が品種登録され、輸出拡大も視野に入れた「佐藤錦」と「紅秀峰」に続く品種として、県産さくらんぼのさらなるブランド力の強化の一翼を担うものと期待されている。



(2) 西洋なし

西洋なしの栽培は、明治8年にりんご等とともに内務省勸業寮から苗木が交付され、試作したのが始まりといわれている。

導入当初は追熟に関する知識がなく、加えて西洋なし特有の風味に慣れていないこともあって面積が増加せず、明治44年の生産量は8t程度であった。

当時の中心品種は「パートレット」、「フレミッシュビューティ」等で、大正7、8年両年の干ばつによる米の不作があって以降、屋代村(現高島町屋代地区)を中心に西洋なしの新規植栽が進んだ。中心品種「パートレット」の新植に加え、その受粉樹として「ラ・フランス」等が導入された。

さらに、昭和10年の記録的な豪雪により日本なしで壊滅的な雪害が発生したことに伴い、西洋なしへの転換が一気に進んだ。

また、昭和9年の冷害凶作の対策として、農村工業として缶詰工場が整備されてきており、西洋なし缶詰の英国向け輸出が好成績であったため、高島町屋代地区等で生産が急激に増加し、昭和17年には生産量が3,760tとなった。

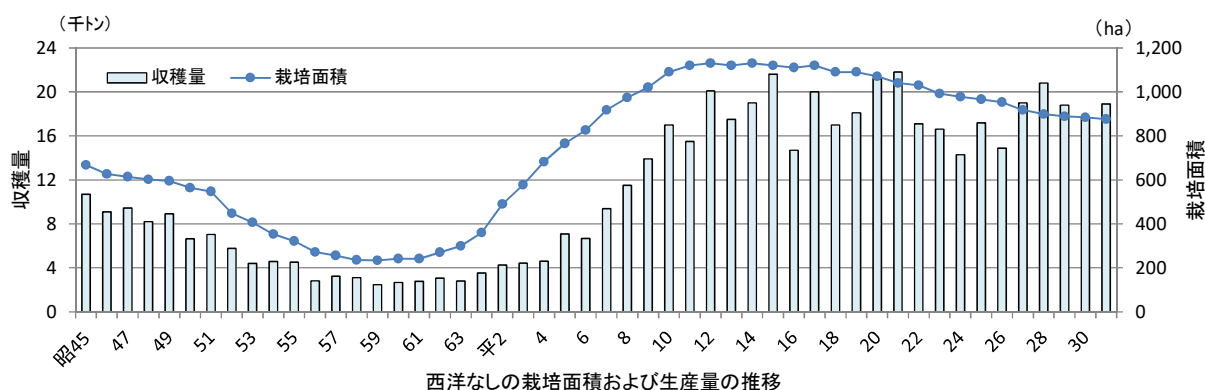
第2次世界大戦中の食糧増産に伴う強制伐採は、水田に盛土をして栽培している西洋なしに特に圧力が強かった。西洋なしは、果実がなり始めるまで時間がかかることもあり、昭和30年代に入って、ようやく戦前と同レベルの生産状況まで回復した。

戦後は加工、生食とも需要が多く新植が著しかったが、昭和37年頃より価格が不安定となり、さらに、昭和40年代になると缶詰需要の低迷により栽培面積は減少の一途を辿り、昭和50年代の栽培面積は200haを下回った。

一方で、「パートレット」の価格が低迷する中、一部の生産者が食味の良い「ラ・フランス」を生食用として出荷していたものが高値で販売されていたことから、昭和60年代に入ると新植が増加し、平成元年に360haであった栽培面積は、平成13年には1,130haまで急激に拡大した。西洋なしの栽培面積の急激な増加は、全国的なもので平成元年に890haであった栽培面積は平成13年に1,950haまで増加している。

平成10年以降は全国的に出荷量が急増していく一方で、食べ頃が判断しにくいという「ラ・フランス」の特徴から消費が伸びず、販売価格は徐々に低迷した。また、他樹種への更新、高齢化等により、栽培面積は徐々に減少している。

なお、平成20年以降は、それまでの消費宣伝の成果として、西洋なしの食べ方が消費者の間に徐々に浸透してきたことや、平成25年から設定した販売開始基準日等の食味を重視した出荷・販売の取組みにより、販売価格が持ち直してきている。さらに、令和2年には「山形ラ・フランス」が地理的表示(GI)保護制度に登録され、さらなるブランド力の向上が期待されている。



(3) りんご

りんごの栽培は明治8年、内務省勸業寮より苗木の交付を受け、試作したのが始まりといわれている。その後、年々栽培面積は増加し、生産量は明治29年には1,100t、大正3年には、1,590tと増加した。しかし、大正中期以降は病虫害、特にリンゴワタムシの被害により作柄が振わず、防除技術が定着する昭和10年頃まで生産量は低迷した。

その後、栽培技術、防除技術の進歩により生産は上向きとなったが、第2次世界大戦中の食糧増産に伴う強制伐採により、栽培面積は減少した。

戦後は経済の復興とともに果物に対する需要の増大から、昭和30年代には「国光」と「紅玉」等を基幹品種として急速な増植が図られ、昭和40年の栽培面積は3,960haに達した。

しかし、全国のりんご生産が過剰となり、収益性も低下したことから、本県のりんご栽培も減少に転じ、昭和45年には3,490haとなった。その後、より食味の良いデリシャス系の品種や「ふじ」への更新によって栽培面積の急激な減少に歯止めが掛かり、3,500ha台で推移した。

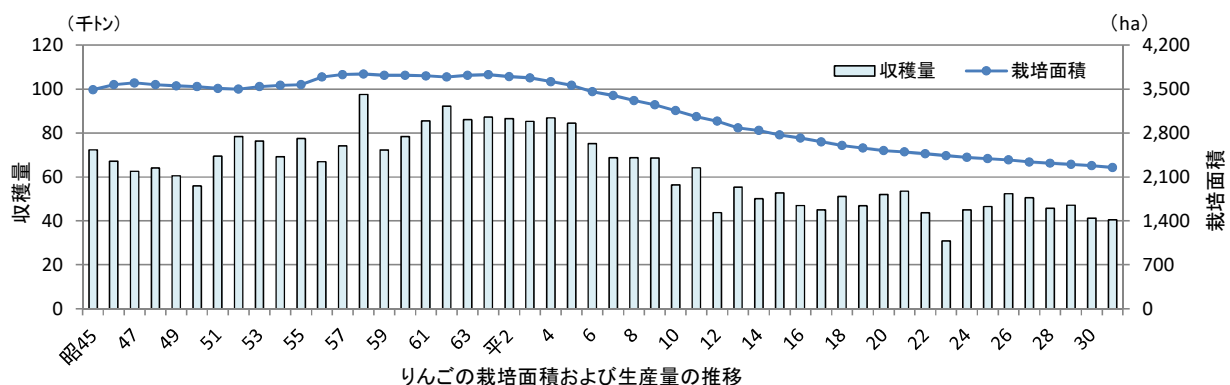
昭和50年代には国営総合農地開発事業（パイロット事業）による新たなりんご団地の造成や、50年代後半のわい化栽培の普及、水田利用再編対策事業による水田への新植等によって栽培面積は3,700ha台に増加した。

また、昭和40年代前半まではりんご栽培は有袋栽培が一般的であったが、昭和46年、全国に先駆けて朝日町に「無袋ふじ研究会」が発足し、県園芸試験場の協力のもと無袋栽培の技術が確立し、現在の「ふじ」栽培の基礎が確立された。

なお、この間各種の栽培技術、病虫害防除技術の進歩により、良質の果実が増産され、同時にスピードスプレーヤーなどの高性能省力作業機や大型共同選果施設の導入により、大幅な省力化が図られるようになった。

平成9年になると、りんご生産の過剰感から価格が暴落し、このことをきっかけに、農林水産省では、りんごの価格低下の際に補てん金を支払う制度である「果樹経営安定制度」を平成13年からスタートさせた。この制度は、平成19年には「果樹経営支援対策事業」となり、それまでの「価格下落時の補てん金支払い」から「優良品種への更新による所得確保や園内道の整備等による生産の効率化」へと政策が移行した。

近年は、「ふじ」、「シナノスイート」等を中心に輸出も増加しており、海外（台湾、香港等）でも高く評価されている。



(4) ぶどう

ぶどう栽培の歴史は古く、南陽市では江戸時代初期より、また、鶴岡市西荒屋（旧山添村）では江戸時代中期より「甲州種」が植えられていたことが石碑等に記されており、明治初期にはこれらの地域はかなりの産地となっていたようである。

明治20年頃、内務省勸業寮を通じ欧米から様々な品種が導入されたが、南陽市（旧赤湯町）では「ブラックハンプブルグ」、「マスカットハンプブルグ」などの欧州種が好成績をあげ、次第に増殖されて全国屈指の欧州種の栽培産地として発達した。

その後「コンコード」が導入され、明治25年頃には南陽市でぶどう酒の醸造がはじめられた。明治40年頃米国種の「デラウェア」、「キャンベルアーリー」などが導入され、栽培が容易であるため、その後はこれらの品種が主体となった。

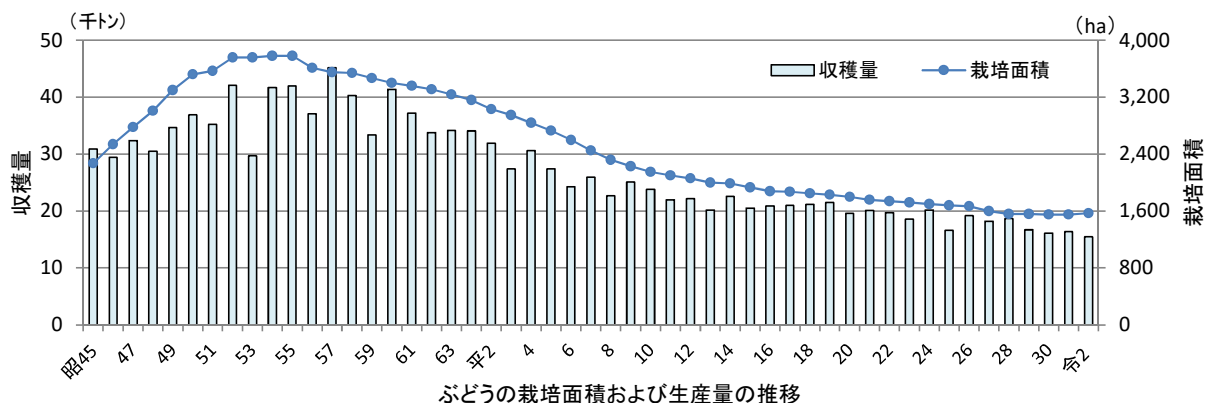
大正5年頃にフィロキセラ（ブドウネアブラムシ）が大発生し栽培面積の増加が停滞したが、その後抵抗性台木を用いた苗木の普及により生産が安定し、大正10年以降は栽培面積が増加していった。

昭和30年以降生食向けの需要が増加するにつれ、生産量は年々増加し、特にジベレリン処理による種なしぶどうとして「デラウェア」の需要が高まった。昭和40年代後半には、国営総合農地開発事業（パイロット事業）での団地造成などで急激に面積が増加し、ピーク時（昭和54～55年）には3,780haまで拡大した。

栽培面積が拡大した「デラウェア」であったが、「晩腐病」の多発により、出荷量が年により安定しない等の課題が多かった。昭和50年代に入ると、全国に先駆けてぶどう園への雨除け施設の導入が始まり、それ以降、本県「デラウェア」の生産が安定した。

一方、この頃から、「デラウェア」価格が低下し、それに伴い、ぶどうの栽培面積が減少し始めた。県では「デラウェア」から収益性の高い大粒種ぶどうへの更新を推進し、「巨峰」、「ピオーネ」、「高尾」、「オリンピア」など導入されたが、いずれも100ha未満の導入にとどまった（高尾は約120haまで植栽された）。品種構成における「デラウェア」の比率は高いままで推移し、現在でも6割程度となっている。

平成に入ると、価格の低迷に加え、傾斜地のぶどう園が多いこと、昭和30～40年代に盛んに植えつけられたぶどう園の老木化による生産性の低下、さらには生産者の高齢化等から、栽培面積は急激に減少した。しかし、近年、平成19年に苗木販売が開始された「シャインマスカット」の導入や、日本ワインの需要の高まりに伴った醸造用ぶどうへの新植・改植が進んでいることから、ぶどう全体の栽培面積は微減となっている。



(5) もも

ももの栽培は、他の果樹同様、明治8年頃、内務省勸業寮より苗木の交付を受け、欧米種、支那種が導入されたが、欧米種は本県での栽培に適せず、支那種が栽培されるようになった。支那種は華中系の品種で「天津水蜜桃」、「上海水蜜桃」が普及した。

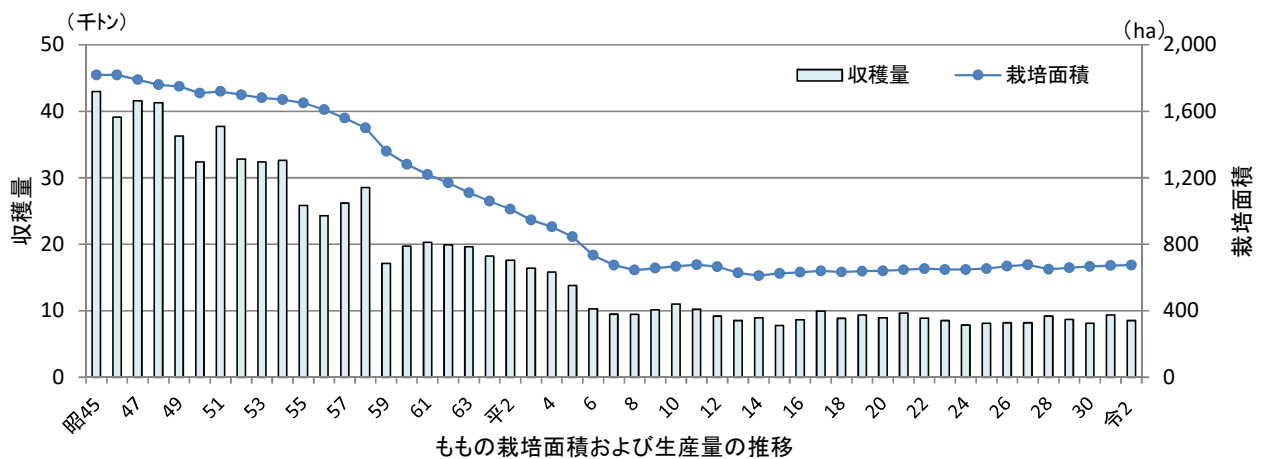
栽培地は庄内砂丘地の他、寒河江市と須川沿岸でも栽培され、生食が主で、缶詰での利用は限定的であった。

その後は加工需要の増加から、明治31年に570t、大正14年に1,100t、昭和14年に1,880tと生産量は増加したが、第2次世界大戦中の食糧増産のための強制伐採により生産量は急減した。

戦後、加工工場の増設により昭和30年頃から急速に増植が進み、優良品種の普及、技術の進歩等もあって、生産量の伸びは、他に類をみないほど著しかった。

しかし、加工需要の減退と園地の老朽化及び収益性の高い樹種への改植などから、栽培面積は昭和42年頃をピークに減少し、昭和50年代末以降、中国から安い缶詰が輸入され始めると、栽培面積は急激に減少していった。

近年は、生食用ももの価格が比較的安定していることから収益性の低い樹種や水田からの転換により新植がみられるようになった。平成10年以降は、生育期間中の気温が高く推移していること、9月以降のもの需要が見込めることなどから、それまで、「川中島白桃」や「ゆうぞら」など晩生品種を中心に生食用の栽培が増加した。さらに近年では、9月中旬頃に収穫される晩生品種の導入が進んできていること等から、栽培面積は微増傾向である。



(6) かき

かきは、全国的に地名を冠したいわゆる地柿と言われるものが多く、本県でも「関根柿」、「千才柿」をはじめ多様な品種が古くから栽培されていた。現在、栽培されている主要品種は「平核無」で、別名庄内柿といわれている。

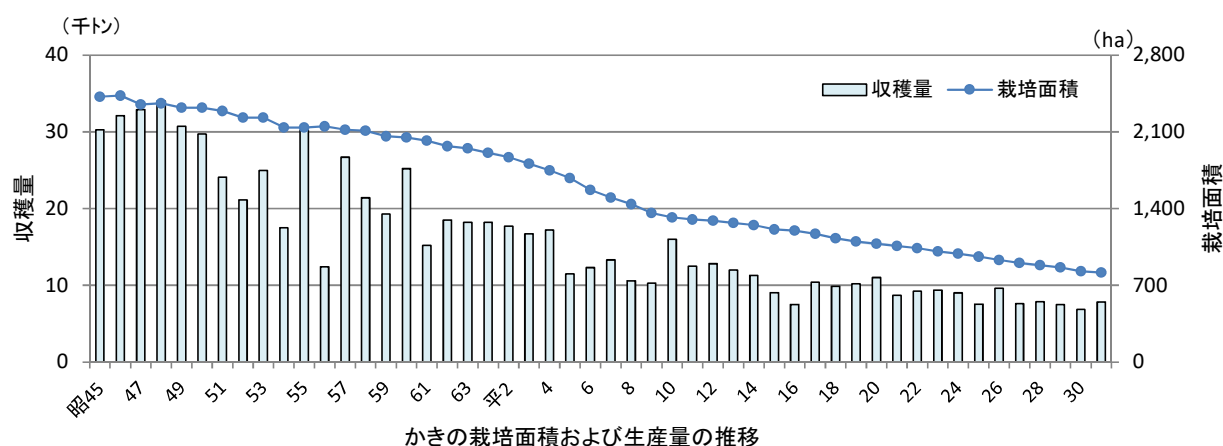
「平核無」が本県にはじめて植栽されたのは明治18年といわれ、鶴岡市の鈴木重光氏が新潟の行商人から数種の苗木を購入し、その中に果実が扁平で、核無しの柿があるのを発見したと伝えられている。その原木は同市鳥居町に現存している。

これが普及したのは、鈴木氏と親交の厚かった酒田市黒森の酒井調良氏の5haにおよぶ集団植栽に始まるといわれている。酒井調良氏が東京帝国大学の原教授よりアルコール脱渋法を学び、焼酎で成功し、普及・拡大した。原教授が「平核無」と名付け、庄内地域全体に知られるようになった。大正3年には北海道に向けた試験的な出荷が始まった。昭和になると、当時の庄内地方の郡農会を経て、北海道へ本格的な出荷がはじまり、それが好成績を収めたことから、その後栽培面積や出荷量も増加し、かきは、戦前では栽培面積、出荷量とも県内で最も多い品目となった。

昭和30年以降、「平核無」は北海道における安定した需要と価格にささえられ、栽培面積、生産量とも増加していったが、昭和50年代に入ると、和歌山県で「温州みかん」や「八朔」から「平核無」への改植が急速に進んだことで、全国的に出荷量が多くなった。

暖地に比べ出荷時期が遅く、果実肥大が劣る本県産「平核無」の価格は低迷したことと、生産者の高齢化などにより、栽培面積は昭和50年代後半から減少を続けている。なお、このころ、比較的高単価が期待される早生品種の「刀根早生」の導入が進められたが、新たにかきを導入しようとする生産者が少なく、期待したほどに栽培面積が拡大しなかった。

現在は付加価値を高めるために、樹上脱渋、干し柿など加工品製造にも取り組み、農家所得の向上を図っている。



3 果樹品目別の生産動向

年産	さくらんぼ				西洋なし			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治38年	31	-	84	-	-	-	-	-
43年	61	-	190	-	3	-	10	-
大正9年	126	-	590	-	22	-	54	-
昭和5年	165	-	1,460	-	32	-	158	-
15年	218	-	1,880	-	307	-	1,970	-
25年	119	-	912	-	139	-	1,310	-
35年	536	-	3,560	6	501	-	4,860	-
40年	866	644	5,500	8	963	672	8,640	-
45年	1,080	908	10,500	32	668	646	10,700	(5)
50年	1,810	1,290	10,600	57	564	550	6,650	5
55年	1,720	1,580	10,700	53	322	315	4,520	(8)
60年	1,640	1,530	18,200	118	242	194	2,680	(8)
平成2年	1,860	1,610	11,500	168	490	259	4,260	14
7年	2,360	2,060	11,900	196	917	645	9,390	30
12年	2,630	2,460	12,900	215	1,130	979	20,100	50
17年	2,970	2,700	13,200	204	1,120	1,010	20,000	38
18年	3,100	2,810	14,900	211	1,090	1,000	17,000	41
19年	3,150	2,850	11,100	210	1,090	1,000	18,100	36
20年	3,180	2,890	12,000	233	1,070	979	21,200	40
21年	3,180	2,900	12,000	225	1,040	958	21,800	39
22年	3,180	2,910	14,300	233	1,030	950	17,100	47
23年	3,150	2,910	15,600	275	992	927	16,600	46
24年	3,150	2,910	13,200	298	978	915	14,300	42
25年	3,150	2,910	13,500	308	967	909	17,200	52
26年	3,140	2,910	14,500	332	953	889	14,900	50
27年	3,140	2,900	13,200	337	918	873	19,000	55
28年	3,090	2,890	15,000	344	898	868	20,800	61
29年	3,060	2,870	14,500	368	889	859	18,800	57
30年	3,040	2,860	14,200	374	884	854	17,700	56
令和元年	3,050	2,840	11,900	362	876	846	18,900	59
2年	3,060	2,830	13,000	-	872	-	-	-

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。

2 昭和45年産以前の出荷量は暦年統計。西洋なしの()内数値は日本なしを含む数値。

年産	りんご				ぶどう			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	319	-	482	-	22	-	52	-
43 年	408	-	1,030	-	21	-	134	-
大正 9 年	237	-	402	-	198	-	561	-
昭和 5 年	113	-	357	-	298	-	2,260	-
15 年	110	-	597	-	402	-	2,930	-
25 年	546	-	4,480	-	345	-	4,560	-
35 年	3,160	-	47,500	12	1,500	-	15,800	6
40 年	3,960	3,580	66,800	20	1,930	1,800	21,200	11
45 年	3,490	3,400	72,300	32	2,270	2,140	30,900	45
50 年	3,540	3,280	56,000	89	3,520	2,870	36,900	120
55 年	3,570	3,300	77,500	145	3,780	3,690	42,000	88
60 年	3,720	3,230	78,400	159	3,400	3,260	41,400	112
平成 2 年	3,700	3,330	86,600	186	3,030	2,910	31,900	117
7 年	3,400	3,190	68,800	131	2,450	2,380	26,000	122
12 年	2,990	2,860	43,800	95	2,060	2,000	22,200	90
17 年	2,660	2,550	45,000	75	1,870	1,790	21,000	67
18 年	2,600	2,510	51,100	88	1,850	1,770	21,200	77
19 年	2,560	2,470	46,900	80	1,830	1,750	21,500	80
20 年	2,520	2,420	52,000	69	1,800	1,720	19,600	79
21 年	2,500	2,390	53,500	67	1,760	1,690	20,100	82
22 年	2,470	2,360	43,700	64	1,740	1,670	19,700	88
23 年	2,440	2,330	30,800	62	1,720	1,650	18,600	87
24 年	2,410	2,310	45,000	88	1,700	1,640	20,200	92
25 年	2,390	2,290	46,500	106	1,680	1,600	16,600	79
26 年	2,370	2,270	52,400	114	1,670	1,590	19,200	91
27 年	2,340	2,260	50,600	115	1,600	1,540	18,200	111
28 年	2,320	2,250	45,700	111	1,560	1,520	18,700	109
29 年	2,300	2,230	47,100	108	1,560	1,500	16,700	111
30 年	2,280	2,210	41,300	98	1,550	1,490	16,100	118
令和元年	2,250	2,190	40,500	102	1,550	1,480	16,400	123
2 年	2,210	-	-	-	1,570	1,480	15,500	-

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。

2 昭和45年産以前の出荷量は暦年統計。

年産	も も				か き			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	144	-	311	-	299	-	3,940	-
43 年	152	-	449	-	283	-	3,310	-
大正 9 年	285	-	779	-	414	-	3,310	-
昭和 5 年	292	-	1,420	-	511	-	6,100	-
15 年	313	-	1,790	-	651	-	7,960	-
25 年	97	-	710	-	470	-	6,200	-
35 年	1,020	-	8,720	-	814	-	12,100	-
40 年	1,560	1,400	29,900	-	2,100	1,760	18,800	-
45 年	1,820	1,740	43,000	16	2,420	2,090	30,300	17
50 年	1,710	1,660	32,400	32	2,320	1,970	29,700	30
55 年	1,650	1,560	25,800	21	2,140	1,880	30,200	26
60 年	1,280	1,220	19,700	25	2,050	1,860	25,200	30
平成 2 年	1,010	986	17,600	34	1,870	1,720	17,700	28
7 年	675	603	9,460	24	1,500	1,420	13,300	21
12 年	664	580	9,190	18	1,290	1,240	12,800	15
17 年	640	554	9,930	16	1,170	1,150	10,400	11
18 年	633	553	8,830	17	1,130	1,120	9,860	13
19 年	637	557	9,360	19	1,100	1,090	10,200	12
20 年	640	552	8,940	16	1,080	1,070	11,000	13
21 年	646	558	9,650	19	1,060	1,060	8,700	10
22 年	652	565	8,870	27	1,040	1,040	9,240	18
23 年	647	576	8,520	25	1,010	1,010	9,370	17
24 年	647	585	7,840	26	989	985	9,000	13
25 年	652	594	8,080	26	962	955	7,540	13
26 年	668	596	8,170	26	932	925	9,620	14
27 年	676	602	8,190	28	904	899	7,600	12
28 年	649	604	9,180	31	883	878	7,850	16
29 年	657	607	8,680	29	865	856	7,520	13
30 年	666	611	8,070	31	830	821	6,860	13
令和元年	671	615	9,350	38	817	808	7,830	16
2 年	675	621	8,510	-	797	-	-	-

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。

2 昭和45年産以前の出荷量は暦年統計。かきの昭和15年以前は「生かき」である。

年産	すもも				日本なし			
	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)	栽培面積 (ha)	結果樹面積 (ha)	生産量 (t)	産出額 (億円)
明治 38 年	-	-	-	-	257	-	450	-
43 年	-	-	-	-	286	-	1,480	-
大正 9 年	-	-	-	-	330	-	915	-
昭和 5 年	-	-	-	-	277	-	1,850	-
15 年	-	-	-	-	209	-	1,780	-
25 年	-	-	-	-	98	-	1,310	-
35 年	-	-	-	-	173	-	1,690	-
40 年	-	-	-	-	149	135	1,500	-
45 年	-	-	-	1	155	132	2,060	-
50 年	-	-	-	2	152	136	1,710	2
55 年	127	127	1,260	2	162	151	2,310	-
60 年	147	124	1,540	2	157	143	2,000	-
平成 2 年	160	134	1,790	5	149	132	1,860	4
7 年	161	136	1,750	6	150	133	1,730	4
12 年	191	165	1,260	4	141	125	1,890	4
17 年	217	189	1,970	5	145	134	1,680	3
18 年	219	193	1,720	5	145	134	1,710	3
19 年	223	198	1,850	5	150	138	1,950	3
20 年	228	198	1,770	5	150	138	2,060	3
21 年	235	200	1,510	4	145	135	1,880	3
22 年	238	210	1,950	6	143	134	1,570	4
23 年	241	217	1,390	5	142	135	1,840	4
24 年	245	223	1,400	5	139	135	1,800	4
25 年	248	228	1,560	5	139	134	1,760	4
26 年	250	233	1,960	7	139	134	1,840	5
27 年	251	237	1,970	7	138	134	1,940	5
28 年	250	238	2,220	8	137	133	1,770	5
29 年	255	241	1,780	9	131	127	1,700	5
30 年	258	245	2,000	10	126	123	1,510	4
令和元年	261	247	1,890	10	122	121	1,750	-
2 年	264	250	1,810	-	117	115	1,540	-

(注) 1 出典は「耕地及び作付面積統計」、「果樹生産出荷統計」及び「生産農業所得統計」。

2 昭和45年産以前の出荷量は暦年統計。

4 品種別栽培面積の推移

(1) さくらんぼ

(単位：ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
早生	香夏錦	-	2.5	17.9	16.3	19.0	18.2	19.0	16.7	16.5	15.9	0.5%
	正光錦	-	-	-	-	8.1	25.8	28.4	25.9	25.9	23.7	0.8%
	桜頂錦	-	1.5	18.9	3.7	5.9	1.5	-	-	-	-	-
	紅ゆたか	-	-	-	-	-	2.5	9.0	9.1	8.4	8.4	0.3%
	紅さやか	-	-	14.6	35.0	49.8	108.7	133.0	120.0	123.5	127.4	4.2%
	山形美人	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	0.0%
	ジャボレー	33.0	47.5	35.0	16.9	19.5	7.9	2.6	2.0	1.8	1.7	0.1%
	高砂	90.0	110.9	154.8	80.1	65.6	68.4	52.6	48.4	45.5	42.3	1.4%
	日の出	3.0	4.8	4.3	0.9	1.2	0.3	-	-	-	-	-
中生	八興錦	-	-	0.1	0.7	1.1	0.3	-	-	-	-	-
	ジャボ錦	-	-	0.2	0.7	0.1	0.2	1.5	1.5	1.5	1.5	0.0%
	ダイヤブライト	-	20.7	16.5	3.9	1.6	0.7	-	-	-	-	-
	紅きらり	-	-	-	-	-	7.2	6.2	6.0	5.9	5.5	0.2%
	佐藤錦	630.0	935.0	1,473.7	1,860.0	2,181.1	2,335.6	2,275.6	2,249.7	2,216.0	2,199.2	72.3%
	北光(水門)	3.3	2.2	1.8	0.9	0.9	0.1	-	-	-	-	-
	天香錦	-	-	1.0	1.7	2.8	1.6	3.4	2.4	2.4	2.0	0.1%
	蔵王錦	0.2	11.8	4.0	1.7	0.4	0.2	-	-	-	-	-
晩生	羽陽ことぶき	4.0	4.5	4.1	2.7	1.5	-	-	-	-	-	-
	大将錦	-	-	5.3	4.4	10.1	12.8	20.8	19.2	15.8	12.7	0.4%
	紅秀峰	-	-	24.5	130.4	230.0	363.8	434.2	447.9	460.6	471.2	15.5%
	紅てまり	-	-	-	8.0	16.7	20.0	21.7	21.7	21.7	21.9	0.7%
	高陽錦	-	-	3.6	3.5	1.5	0.6	-	-	-	-	-
	ホレオン	830.0	692.5	538.1	427.1	302.7	184.3	117.3	102.9	98.7	91.2	3.0%
	南陽	7.1	25.8	33.0	14.2	18.0	16.2	8.7	9.7	8.7	8.8	0.3%
月山錦	-	-	-	-	-	1.7	6.0	5.9	6.1	5.6	0.2%	
統計	1,620	1,620	1,860	2,360	2,630	3,180	3,140	3,090	3,060	3,040		

(2) 西洋なし

	調査年度										構成割合
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産	
バレード	-	-	-	7.1	17.5	13.9	13.0	12.7	13.1	15.4	1.7%
メロリッチ	-	-	-	-	-	5.0	22.0	25.0	27.5	27.5	3.1%
オロー	-	-	0.5	27.3	35.7	44.6	33.2	31.8	31.6	31.6	3.6%
シルバーベル	-	31.3	67.3	50.0	55.6	30.1	21.6	19.3	20.1	20.1	2.3%
ゼネラル・レクター	-	2.0	6.5	7.4	11.2	8.3	7.2	6.8	5.9	4.9	0.6%
バートレット	103.3	48.4	35.3	32.8	36.2	22.7	18.4	17.4	17.3	17.0	1.9%
プレミッシュ・ビュティフル	-	-	1.0	0.5	0.1	0.3	-	-	-	-	-
ド・バートレット	-	-	0.4	0.9	1.4	5.2	3.0	2.5	2.3	1.8	0.2%
マルゲリット・マリー	1.1	9.5	20.4	22.9	32.3	27.1	20.6	19.3	19.9	18.3	2.1%
ラ・フランス	134.4	386.3	761.0	961.9	912.0	856.6	765.5	749.0	737.8	734.9	83.1%
ル・レクチェ	3.2	6.1	21.9	12.9	6.6	14.3	9.4	9.9	9.0	8.0	0.9%
パスクラサン	-	3.2	0.5	0.3	0.4	-	-	-	-	-	-
ウインターネリス	-	3.2	1.5	0.8	0.5	0.3	-	-	-	-	-
カリフォルニア	-	-	-	-	-	-	1.1	1.3	1.5	1.5	0.2%
トワイエネ・デュ・コム	-	-	-	-	-	-	3.0	3.0	3.0	3.0	0.3%
統計	242	490	917	1,130	1,120	1,030	918	898	889	884	

資料：「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(3) りんご

(単位: ha)

品種名											構成割合	
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
極 早 生	あおり16(恋空)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	0.0%
	つがる姫	-	-	-	-	-	-	-	-	2.7	2.2	0.1%
早 生	さんさ	-	17.6	41.2	28.7	25.0	6.3	5.1	4.4	3.2	2.7	0.1%
	未希ライフ	-	-	-	1.2	1.2	1.5	-	-	-	-	-
	シナルレッド	-	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-
	シナドルチェ	-	-	-	-	-	-	1.0	2.0	3.0	3.0	0.1%
	ファーストレディ	-	-	-	-	-	48.0	72.5	60.3	42.8	40.9	1.8%
	あかね	25.3	28.2	27.7	29.1	8.1	2.5	2.0	1.8	1.8	1.8	0.1%
	つがる	410.0	546.0	500.1	385.0	318.0	273.0	258.7	247.2	247.2	241.9	10.6%
	ネロ26号	32.0	13.7	4.5	1.5	1.0	-	-	-	-	-	-
	みちのく	-	1.1	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	祝	10.2	6.8	4.1	4.0	1.5	2.2	1.1	1.0	1.0	1.0	0.0%
中 生	千秋	144.3	280.2	157.9	120.0	119.4	45.5	17.6	15.1	14.8	14.1	0.6%
	陽光	14.8	22.4	49.0	48.2	37.1	28.1	12.4	11.8	11.9	11.0	0.5%
	紅月	1.0	1.7	0.6	0.5	-	-	-	-	-	-	-
	北斗	25.7	92.5	56.1	22.6	14.6	10.0	5.3	5.0	2.0	2.0	0.1%
	やたか	-	52.7	90.9	53.0	38.2	25.9	5.2	5.0	4.6	4.4	0.2%
	秋映	-	-	-	1.5	2.0	7.5	15.0	14.7	14.7	15.8	0.7%
	紅將軍	-	-	-	10.7	16.5	18.6	6.3	6.3	6.3	6.3	0.3%
	シナスイート	-	-	-	20.8	37.3	54.3	73.2	74.3	70.4	72.4	3.2%
	シナゴールド	-	-	-	-	11.5	6.2	18.6	19.8	21.5	24.0	1.1%
	トキ	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0%
	涼香の季節	-	-	-	2.3	9.0	10.3	7.4	7.2	7.6	7.6	0.3%
	秋陽	-	-	-	-	3.0	50.0	68.0	67.8	67.8	62.9	2.8%
	清明	-	-	-	-	3.2	0.5	-	-	-	-	-
	こうとく	-	-	-	-	-	0.5	5.0	5.6	7.0	10.0	0.4%
	アルプス乙女	-	-	-	-	2.6	1.9	-	-	-	-	-
	ゴールドデシリシャス	18.6	19.6	4.5	3.8	25.0	6.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0%
	ジョナゴールド	75.0	121.7	96.2	82.0	65.5	38.0	18.2	18.0	15.5	15.0	0.7%
	デシリシャス系	850.0	669.1	221.2	176.0	90.0	15.2	1.3	1.1	1.1	1.1	0.0%
	レットゴールド	6.0	11.9	2.4	2.0	0.2	0.1	-	-	-	-	-
	昂林	-	-	33.0	75.7	89.0	146.4	146.0	145.7	154.8	149.6	6.6%
	紅玉	310.5	241.4	155.4	123.6	88.3	59.5	38.3	37.9	37.7	36.9	1.6%
	世界一	15.0	21.9	23.6	14.1	5.2	2.5	1.3	1.1	1.1	1.1	0.0%
弘前ふじ	-	-	-	-	4.7	19.3	15.2	17.8	21.1	22.6	1.0%	
相伝ふじ	-	-	-	-	-	-	25.0	27.0	27.0	27.0	1.2%	
晩 生	ぐんま名月	-	-	-	-	-	-	1.5	2.8	3.0	3.0	0.1%
	はるか	-	-	-	-	-	-	3.6	5.2	5.1	5.6	0.2%
	ふじ	1,365.0	1,211.2	1,635.0	1,520.0	1,389.0	1,328.7	1,232.1	1,225.5	1,213.0	1,200.4	52.8%
	ラクラクフジ	-	-	-	-	-	17.3	1.0	1.0	2.0	3.8	0.2%
	王林	220.8	241.7	277.3	181.2	170.0	143.0	115.8	112.8	111.7	109.1	4.8%
	駒ふじ	-	-	-	25.0	31.0	18.5	13.6	13.5	12.6	12.6	0.6%
	2001年	-	-	-	47.8	47.7	81.6	106.7	107.7	108.4	104.3	4.6%
	陸奥	34.0	23.7	9.9	4.0	1.1	0.5	-	-	-	-	-
	極ふじ	-	-	-	-	-	-	36.1	43.1	45.1	48.1	2.1%
	コスモふじ	-	-	-	-	-	-	-	3.0	3.0	2.0	0.1%
	三島ふじ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	0.1%
	宮美ふじ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	0.1%
こまちふじ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	0.0%	
統 計	3,710	3,700	3,400	2,990	2,660	2,470	2,340	2,320	2,300	2,275		

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(4) ぶどう (生食用)

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
大粒系・赤	竜宝	—	1.2	1.2	1.0	0.8	0.3	—	—	—	—	—
	ルビーオキヤマ	—	0.5	0.4	0.8	0.9	0.1	—	—	—	—	—
	安芸クイン	—	—	7.7	14.8	12.3	8.1	7.9	7.6	6.6	5.2	0.3%
	ゴルビー	—	—	—	—	—	1.5	3.3	2.0	2.0	4.2	0.3%
	シノスマイル	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5	1.5	0.1%
	オリーブア	39.3	50.3	21.1	26.3	17.9	14.5	2.2	2.1	1.5	1.6	0.1%
	甲斐路	1.0	3.3	6.2	5.2	3.0	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	0.1%
	紅伊豆	—	2.6	1.1	2.2	1.7	0.7	—	—	—	—	—
	紅瑞宝	5.5	3.3	4.8	3.5	2.6	—	—	—	—	—	—
	紅富士	1.0	6.6	5.3	2.9	1.7	—	—	—	—	—	—
	赤嶺	—	—	1.4	0.8	4.0	1.0	1.0	1.0	—	—	—
	ロザリオロッソ	—	—	—	—	—	—	—	1.9	1.9	1.9	0.1%
	クインニーナ	—	—	—	—	—	—	1.0	1.6	2.5	3.6	0.2%
	リザマート	—	—	2.3	2.0	2.2	—	—	—	—	—	—
紅金沢	—	—	0.1	0.1	—	—	—	—	—	—	0.0%	
大粒系・黒	伊豆錦	—	—	—	0.4	0.5	0.4	—	—	—	—	—
	藤稔	—	3.0	5.6	4.3	5.1	2.6	2.1	1.9	1.0	1.1	0.1%
	ブラックヒート	—	—	—	—	—	—	1.0	1.2	1.2	1.2	0.1%
	巨峰	64.3	81.0	50.0	39.4	45.5	51.2	42.5	41.6	39.5	31.3	2.0%
	ピオーネ	37.0	46.2	44.0	59.2	44.0	73.2	70.0	66.8	65.2	64.2	4.1%
	ブラックオリーブア	5.0	7.6	10.2	10.3	13.0	3.2	1.1	1.0	1.0	1.0	0.1%
	高尾	55.0	72.3	117.5	105.9	78.8	47.7	31.0	25.1	22.6	22.0	1.4%
	高墨	—	3.3	3.7	2.5	3.6	1.3	—	—	—	—	—
	ハニーブラック	—	—	0.1	1.0	—	—	—	—	—	—	0.0%
白	ロザリオビアンコ	—	—	1.1	3.7	24.0	24.9	10.6	9.5	6.5	5.6	0.4%
	瀬戸ジャイアント	—	—	—	—	—	—	—	1.0	1.0	1.0	0.1%
	シャインマスカット	—	—	—	—	—	42.3	105.4	126.8	154.9	173.9	11.2%
中粒系	サニールージュ	—	—	—	—	—	1.8	5.3	5.3	8.1	8.6	0.6%
	キャンベル・アーリー	128.5	102.6	60.0	49.3	45.0	6.0	7.0	7.1	6.6	5.7	0.4%
	甲州	8.0	13.1	9.5	10.0	13.0	8.5	7.3	7.3	7.3	7.1	0.5%
	コンコート	24.2	50.8	22.1	7.1	6.4	0.4	—	—	—	—	—
	スチュベン	15.0	29.0	50.5	39.2	39.2	41.2	30.6	29.3	28.1	28.7	1.9%
	タルレット	—	1.4	1.5	1.0	0.5	—	—	—	—	—	—
	ナイガラ	54.1	58.2	48.7	38.7	40.2	44.7	31.8	30.5	30.5	27.2	1.8%
	ネオマスカット	21.1	15.3	2.7	5.3	7.4	3.8	2.5	1.9	1.0	1.0	0.1%
	ヒムロッド	—	—	—	—	2.1	2.3	—	—	—	—	—
	ポートランド	—	—	—	0.3	1.0	—	—	—	—	—	0.0%
	マスカット・ベリーA	60.0	48.3	15.2	31.0	30.0	11.0	29.4	31.3	39.0	41.6	2.7%
レッドニガラ	—	—	3.3	1.0	1.2	—	—	—	—	—	0.0%	
小粒系	キングデラ	—	—	25.6	22.7	18.0	14.6	4.4	4.3	3.4	2.8	0.2%
	紅南陽	—	—	6.4	4.6	6.0	1.2	—	—	—	—	—
	デラウェア	2,606.4	2,222.5	1,676.6	1,353.3	1,214.4	1,143.2	1,007.8	956.1	922.6	903.6	58.3%
早生デラウェア	15.0	12.0	37.2	82.1	63.5	67.0	57.3	51.2	49.7	49.7	3.2%	

(4) ぶどう (つづき・加工用)

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産	
ウヰェルテレイ	9.0	-	15.7	12.7	7.0	3.0	-	-	-	-	-
カベルネ・ソービニオン	-	8.2	10.2	7.0	9.0	8.4	12.8	13.9	13.8	12.7	0.8%
カベルネフラン	-	-	-	-	-	-	-	-	1.2	0.9	0.1%
サントリー・ノール	-	-	3.5	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-
シャルトネ	3.0	11.3	19.0	19.7	26.0	23.7	36.6	43.6	43.6	43.6	2.8%
シラー	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1	-	-
セイベル5279	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
セイベル9110	4.5	8.7	13.0	4.5	5.4	-	10.1	8.3	8.3	6.8	0.4%
セイベル10076	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-
セイベル13053	-	-	-	2.2	1.6	-	-	-	-	-	0.0%
ソービニオン・フラン	-	-	-	-	-	-	2.6	2.6	2.9	3.0	0.2%
ツハイケルトレーベ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ビュシワール	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	-	-
ピノアール	-	-	0.5	0.3	2.2	0.3	1.0	1.0	1.2	1.2	0.1%
ピノフラン	-	-	-	0.2	3.0	3.0	3.0	3.9	3.9	3.9	0.3%
プティベルトウ	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	-	-
プティマンサン	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	0.1%
ブラック・クイン	1.2	-	2.3	1.0	1.0	-	1.7	1.7	7.3	9.4	0.6%
ブラックベガール・ ワインクランテ	-	-	-	0.0	-	-	-	-	-	-	0.0%
マスカットオットネルソン	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
ミュートウルカウ	-	6.5	0.9	2.7	0.6	-	-	-	-	-	-
メルロー	18.6	40.8	48.2	25.1	19.2	14.5	22.3	23.7	23.7	23.7	1.5%
モリオマスカット	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
ヤマソービニオン	-	-	-	-	5.0	9.0	10.4	10.3	10.1	10.1	0.7%
山ぶどう	60.0	77.5	63.5	25.2	22.9	34.5	29.0	28.3	28.6	28.1	1.8%
リースリング	-	21.8	0.2	2.9	-	-	3.0	2.5	1.5	1.5	0.1%
リースリングフォルテ	-	-	7.0	3.5	3.5	2.0	2.0	1.7	1.0	1.6	0.1%
リースリングリオン	11.8	1.9	3.3	2.4	2.6	2.0	-	-	-	-	-
ワインクランテ	-	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-
統 計	3,360	3,030	2,450	2,060	1,870	1,740	1,600	1,560	1,560	1,550	

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、 「耕地及び作付面積統計」

(5) もも

(単位：ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61年産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
早生	日川白鳳	-	-	-	-	1.2	1.3	1.3	1.3	1.4	1.6	0.2%
	加納岩白桃	-	-	-	-	1.2	1.2	-	-	-	-	-
	暁星	-	-	0.2	1.4	2.1	0.4	1.2	1.0	1.0	1.0	0.2%
	紅国見	-	-	-	5.3	4.5	3.3	1.7	1.7	1.7	2.0	0.3%
	砂子早生	45.6	38.8	1.4	5.0	-	0.5	-	-	-	-	-
	倉方早生	45.0	23.4	2.5	3.9	6.3	0.5	-	-	-	-	-
	八幡白鳳	-	-	0.1	1.1	1.2	0.1	-	-	-	-	-
	武井白鳳	-	-	0.2	1.0	-	-	-	-	-	-	-
	小平早生	20.0	2.5	0.3	0.0	-	-	-	-	-	-	-
夢富士	-	-	-	0.6	0.5	0.1	-	-	-	-	-	
中生	長沢白鳳	-	-	7.3	1.2	1.4	0.6	-	-	-	-	-
	紅錦香	-	-	-	6.0	11.2	31.2	13.8	12.7	12.7	14.7	2.2%
	おどろき	-	-	0.8	13.9	12.2	14.7	13.7	11.7	11.1	13.5	2.0%
	よしひめ	-	-	0.6	0.5	0.1	0.5	-	-	-	-	-
	まさひめ	-	-	0.5	2.2	0.5	1.7	-	-	-	-	-
	なつおとめ	-	-	-	-	1.0	2.0	1.7	1.4	1.3	1.3	0.2%
	まなみ	-	-	0.1	2.7	1.9	1.4	-	-	-	-	-
	あかつき	7.7	22.3	72.6	102.6	97.0	97.7	108.5	108.9	116.2	119.6	18.0%
	いけだ	-	-	-	20.2	25.7	26.9	22.4	20.1	18.8	18.8	2.8%
	山根白桃	-	-	-	-	5.3	1.2	-	-	-	-	-
	千曲	2.0	0.3	-	0.0	0.1	-	-	-	-	-	-
	川中島白鳳	-	-	0.5	10.0	5.5	7.2	1.5	1.2	1.2	1.2	0.2%
	大久保	670.0	373.4	339.2	202.0	145.5	74.2	40.0	32.1	27.9	30.7	4.6%
	白根白桃	-	-	-	-	2.2	3.1	3.0	3.0	3.3	3.3	0.5%
	白鳳	142.7	75.1	32.9	16.4	9.9	1.4	-	-	-	-	-
	まどか	-	-	-	5.0	6.2	4.4	32.7	28.6	29.5	29.7	4.5%
滝ノ沢ゴールド*	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5	1.5	0.2%	
白桃系(中生)	18.2	40.8	13.4	2.7	1.5	1.1	-	-	-	-	-	
白鳳系(中生)	2.0	11.8	-	3.5	-	-	-	-	-	-	-	
晩生	ゆうぞら	-	7.5	10.7	25.9	26.5	34.6	21.0	18.5	18.0	16.8	2.5%
	西王母	-	-	-	-	-	15.0	12.2	12.2	11.8	12.3	1.8%
	あぶくま	-	-	-	0.2	1.8	6.2	10.5	10.5	11.4	10.4	1.6%
	美晴白桃	-	-	-	6.2	10.1	18.1	38.3	38.3	39.7	39.7	6.0%
	阿部白桃	-	-	-	1.2	0.6	-	-	-	-	-	-
	黄貴紀	-	-	-	-	-	2.3	4.7	4.8	4.3	4.3	0.6%
	玉うさぎ	-	-	-	-	-	5.4	21.5	21.5	22.2	20.3	3.0%
	ふくよか美人	-	-	-	-	-	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	0.2%
	青空むすめ	-	-	-	-	-	1.6	13.5	13.5	13.5	13.5	2.0%
	黄ららのきわみ	-	-	-	-	-	1.3	1.0	1.0	-	-	-

(5) もも(つづき)

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61年産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
晩	黄金桃	-	-	1.1	11.1	10.4	10.2	29.8	28.0	28.3	28.1	4.2%
	白桃	-	37.4	32.5	2.8	7.0	0.4	-	-	-	-	-
	川中島白桃	-	20.6	93.3	145.6	198.1	203.2	216.6	210.6	212.6	214.0	32.1%
	だて白桃	-	-	-	-	-	5.9	12.1	15.5	17.7	17.7	2.7%
生	さくら	-	-	-	-	-	3.9	17.2	18.6	20.2	22.9	3.4%
	かぐや	-	-	-	-	-	-	-	1.0	1.6	1.7	0.3%
加工用	もちづき	-	-	-	15.7	14.2	37.9	30.7	27.2	27.0	24.3	3.6%
	缶桃5号	155.0	87.1	19.7	7.9	6.6	7.0	3.0	3.0	-	-	-
	缶桃14号	29.8	50.5	21.9	0.9	-	-	-	-	-	-	-
リネット	秀峰	12.0	3.4	3.4	7.1	4.4	1.0	-	-	-	-	-
	その他ネット	9.0	-	-	1.7	2.4	-	-	-	-	-	-
統計	1,220	1,010	675	664	640	652	676	649	657	666		

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、 「耕地及び作付面積統計」

(6) かき

(単位: ha)

品種名	調査年度										構成割合	
	S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
太秋	-	-	-	-	-	0.1	-	-	-	-	-	-
刀根早生	76.4	126.5	194.5	181.2	152.4	151.0	135.4	131.3	129.1	115.2	13.9%	
大核無	-	-	-	-	1.4	0.9	10.0	10.0	10.0	10.0	1.2%	
孝子丸	-	-	0.1	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-	
次郎	-	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
松本早生富有	-	9.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
红柿	59.5	27.9	24.8	16.0	13.5	17.5	17.2	17.3	16.3	16.5	2.0%	
石橋早生	-	28.1	38.7	44.3	29.6	29.9	13.7	13.3	12.7	10.3	1.2%	
平核無	1,862.0	1,676.5	1,240.7	1,044.3	967.0	840.0	727.7	711.1	696.9	678.0	81.7%	
杉田早生	-	1.2	1.3	1.0	0.2	0.4	-	-	-	-	-	
統計	2,020	1,870	1,500	1,290	1,170	1,040	904	883	865	830		

資料: 「特産果樹生産動態等調査」、 「耕地及び作付面積統計」

(7) すもも

品種名		調査年度										構成割合		
		S61産	H2産	H7産	12年産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産			
すもも	早生	紅りようぜん	-	-	1.6	3.7	7.5	7.7	4.8	4.5	5.5	5.5	2.1%	
		李王	-	-	0.7	0.0	1.5	0.4	-	-	-	-	-	
		ハローローザ	-	-	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-	
		ビューティー	5.8	4.0	1.8	2.0	2.2	0.2	1.0	1.0	1.0	1.0	0.4%	
		メスレー	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	
		大石早生	44.8	35.3	52.4	49.2	59.0	47.1	54.7	52.4	52.0	51.3	19.9%	
		早生月光	-	-	0.2	0.0	-	-	-	-	-	-	-	
		関口早生	-	-	1.1	0.6	-	-	-	-	-	-	-	
	相川ジャンボ	-	-	0.8	0.0	-	-	-	-	-	-	-		
	中生	貴陽	-	-	-	1.5	5.8	8.2	7.4	6.9	6.8	7.7	3.0%	
		サンタローザ	7.5	7.9	3.5	3.7	1.4	0.2	-	-	-	-	-	
		サマーエンジェル	-	-	-	-	-	-	2	2.2	2.2	3.4	1.3%	
		サマービュート	-	-	-	-	-	-	1.1	1.1	2.0	2.0	0.8%	
		ソルガム	47.6	68.3	45.4	53.3	45.5	32.4	30.4	29.3	30.9	29.8	11.6%	
		大石中生	0.5	13.5	1.7	7.3	2.2	1.0	-	-	1.1	1.3	0.5%	
		フォーモサ	-	-	3.2	2.4	-	-	-	-	-	-	-	
		月光	-	-	0.8	0.0	-	-	-	-	-	-	-	
	晩生	秋姫	-	-	3.4	7.8	28.8	62.5	79.5	81.1	79.7	79.7	30.9%	
		サンルージュ	-	-	-	-	-	3.6	8.5	8.8	10.1	9.8	3.8%	
		サンセプト	-	-	-	-	-	2.4	7.7	7.5	8.5	8.0	3.1%	
		恋花火	-	-	-	-	-	-	3.2	4.4	4.4	5.3	2.1%	
		レートソルガム	-	3.2	4.5	8.1	12.8	14.8	15.2	15.7	15.6	15.1	5.9%	
		赤すもも	-	-	9.8	9.1	4.0	0.2	-	-	-	-	-	
		太陽	5.1	4.8	10.7	14.8	19.0	25.5	22.7	21.1	21.1	20.8	8.1%	
		ケルシー	-	-	2.6	2.5	-	-	1.3	1.3	1.5	1.5	0.6%	
	ブルーイン	早生	アーリーリバーズ	-	-	2.0	0.7	0.6	1.1	-	-	-	-	-
			ツアー	-	-	0.1	0.8	0.7	0.1	-	-	-	-	-
中生		シュガー	-	2.9	3.7	0.6	0.8	0.1	-	-	-	-	-	
		サンシュガー	-	-	0.1	0.1	-	0.1	-	-	-	-	-	
晩生		サンブルーイン	-	2.9	3.3	4.6	2.9	1.4	1.1	1.1	1.1	1.1	0.4%	
		スタンレイ	-	1.6	0.3	0.5	0.7	0.5	-	-	-	-	-	
		プレジデント	-	-	1.1	3.5	3.8	6.4	4.7	5.8	5.7	5.7	2.2%	
		ベイヤ	-	-	-	0.0	-	-	-	-	-	-	-	
パープルアイ	-	-	0.1	7.1	6.0	5.3	5.7	5.8	5.8	5.5	2.1%			
ハンカリアン	-	-	0.1	0.1	1.4	-	-	-	-	-	-			
統計		147	160	161	191	217	238	251	250	255	258			

資料：「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(8) 日本なし

品種名		調査年度										構成割合	
		S61産	H2産	H7産	H12産	H17産	H22産	H27産	H28産	H29産	H30産		
赤なし	早生	幸水	46.8	63.6	68.1	69.0	80.5	93.0	98.5	98.2	93.2	90.8	72.1%
		新水	8.0	13.5	10.8	7.0	5.8	2.4	-	-	-	-	-
	中生	新星	-	1.3	3.0	3.6	2.8	2.5	2.0	1.7	1.4	1.4	1.1%
		南水	-	-	-	-	1.1	1.2	3.5	3.5	3.5	3.5	2.8%
		あきづき	-	-	-	0.5	0.5	2.8	5.0	5.0	5.0	5.0	4.0%
		豊水	17.7	21.5	27.6	32.0	28.3	33.0	26.5	26.2	25.6	23.0	18.3%
	長十郎	59.9	27.6	14.3	5.3	2.8	0.5	-	-	-	-	-	
	晩生	新高	-	-	0.1	0.5	1.4	2.0	1.5	1.4	1.3	1.3	1.0%
		新興	-	-	-	0.7	0.9	-	-	-	-	-	-
		早生赤	-	0.6	0.6	0.0	-	-	-	-	-	-	-
青なし	早生	八雲	9.0	5.7	6.8	7.1	2.8	0.3	-	-	-	-	-
		八幸	-	2.6	1.2	1.4	1.0	-	-	-	-	-	-
	中生	二十世紀	21.6	12.3	10.7	8.0	8.0	5.3	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8%
統計		163	149	150	140	145	143	138	137	131	126		

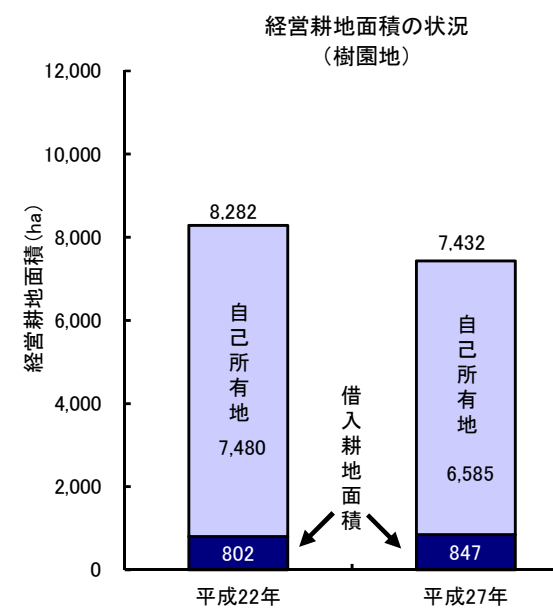
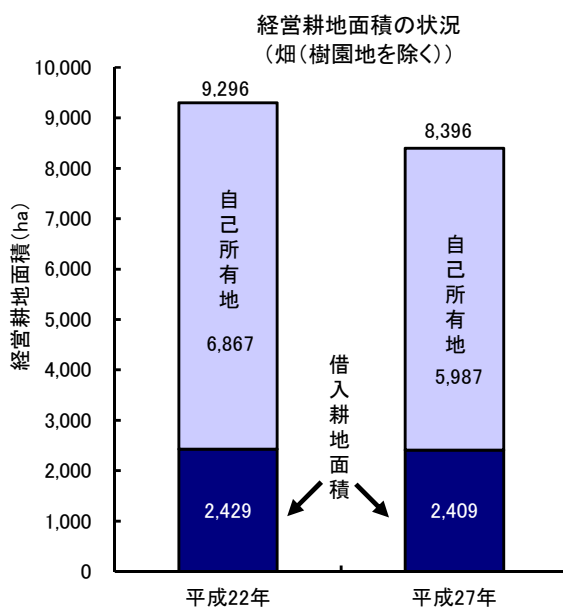
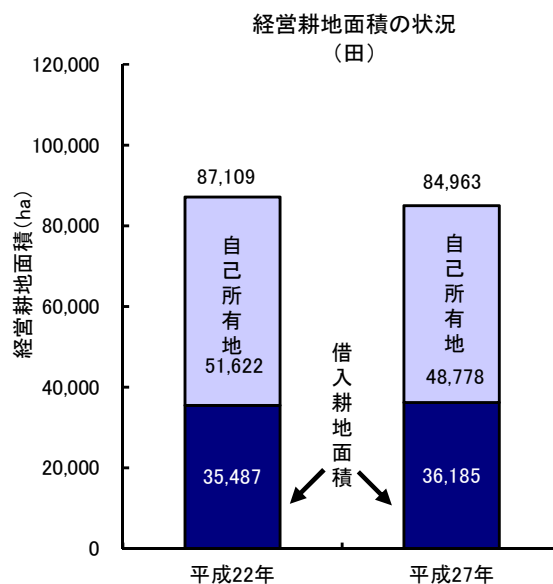
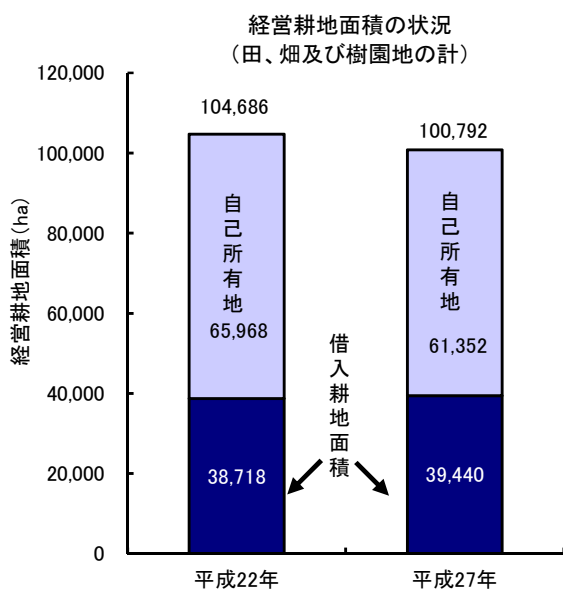
資料：「特産果樹生産動態等調査」、「耕地及び作付面積統計」

(3) 本県における借入耕地の状況

単位:ha

借入耕地面積	計		田		畑(樹園地を除く)		樹園地	
	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年
山形県	38,718	39,440	35,487	36,185	2,429	2,409	802	847
村山地域	9,921	9,526	8,401	8,025	906	842	614	659
最上地域	3,512	4,375	3,118	3,887	389	481	4	6
置賜地域	7,709	8,489	6,855	7,785	729	586	125	119
庄内地域	16,313	17,051	15,742	16,488	431	500	139	63
(経営耕地面積)	104,686	100,792	87,109	84,963	9,296	8,396	8,282	7,432

出典：農林業センサス



出典：農林業センサス

5 果樹の産地構造

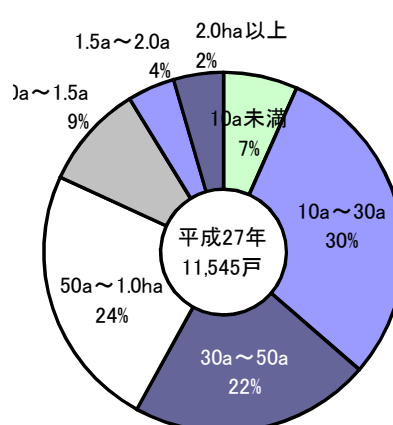
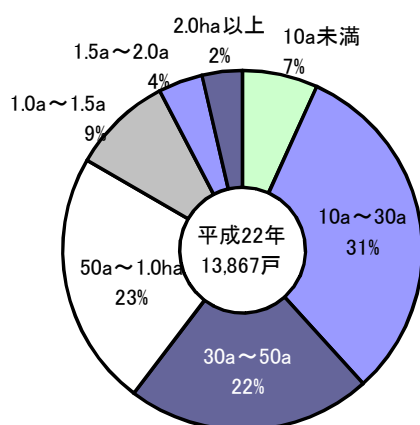
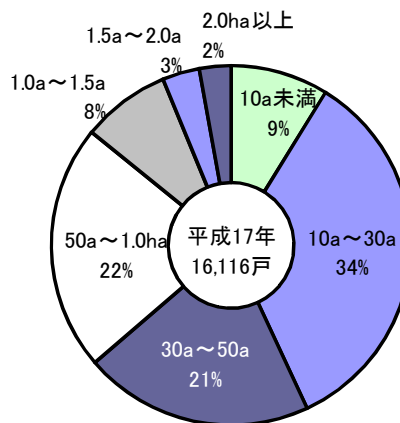
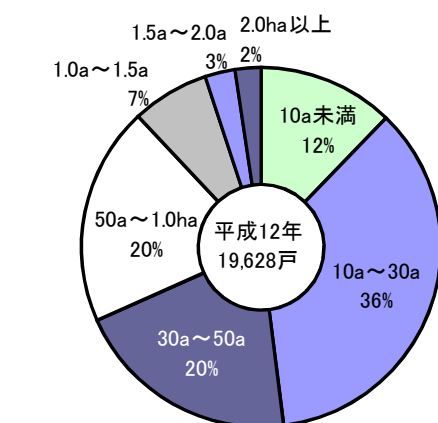
(1) 果樹の栽培面積規模別農家数

栽培面積規模別	栽培農家数（戸）			
	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
計	19,628	16,116	13,867	11,545
10a未満	2,396	1,417	939	769
10～30	7,025	5,521	4,374	3,429
30～50	3,993	3,328	3,056	2,501
50a～1.0ha	3,858	3,569	3,190	2,750
1.0～1.5	1,366	1,284	1,250	1,086
1.5～2.0	533	537	554	491
2.0ha以上	457	460	504	519

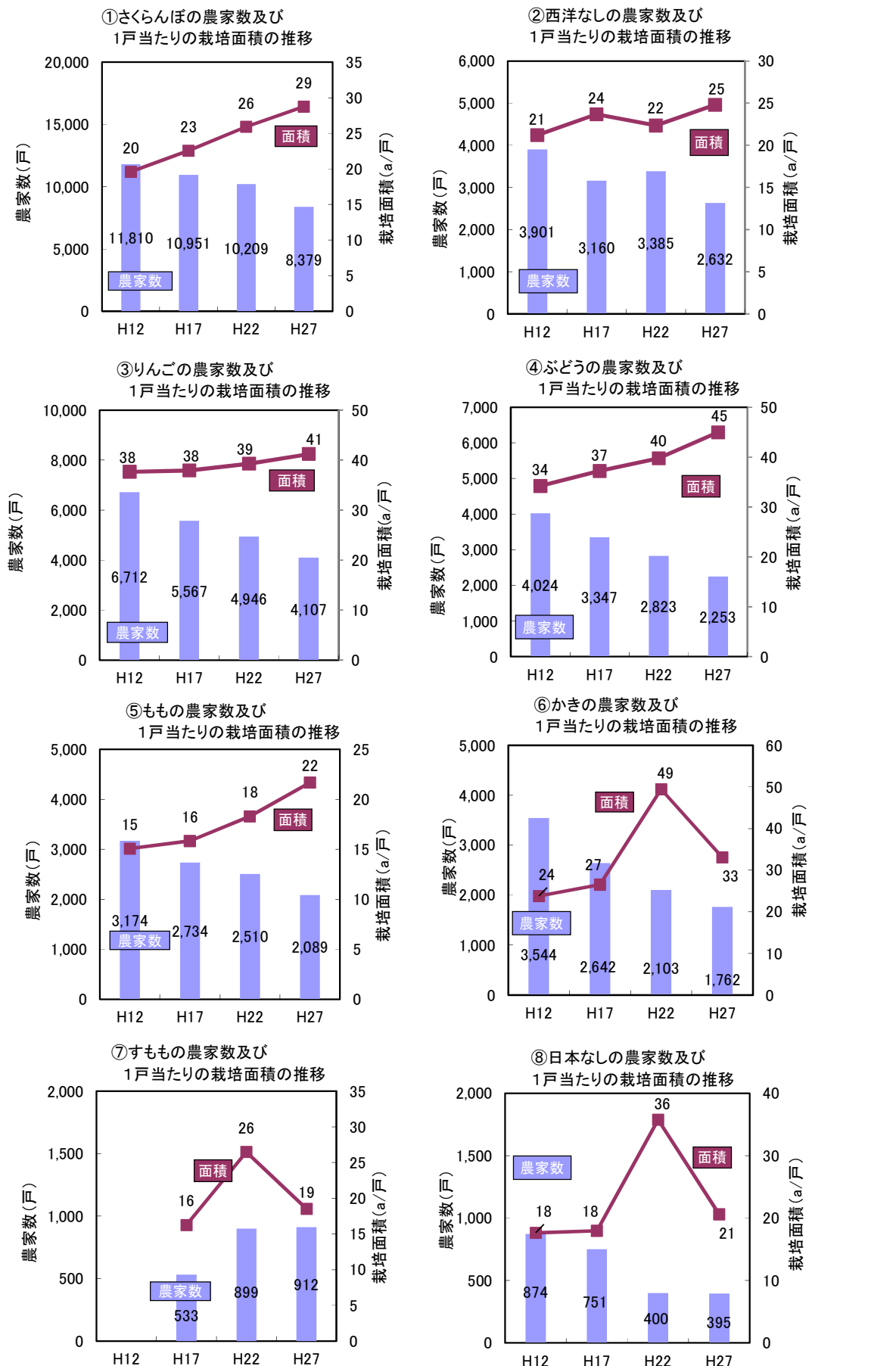
注) 1 農家とは、販売農家である。

出典：農林業センサス

2 栽培面積とは、販売目的で栽培している面積である。



(2) 主要果樹の栽培農家数及び1戸当たりの栽培面積の推移



出典：農林業センサス

6 果実の流通・消費の動向

(1) 山形県産果実の品目別販売価格の推移（東京都中央卸売市場）

		販売価格（円/kg）						
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	5ヶ年平均 (H27～R1)
さくらんぼ	山形	2,006	1,655	1,790	1,967	2,482	2,262	1,980
	全国	1,962	1,661	1,767	1,935	2,295	2,186	1,924
西洋なし	山形	309	312	326	341	317	365	321
	全国	315	326	341	358	334	384	335
りんご	山形	244	266	241	245	261	254	251
	全国	314	332	290	329	313	360	316
ぶどう	山形	673	627	714	757	773	954	709
	全国	891	959	1056	1179	1236	1465	1,064
もも	山形	377	331	325	396	400	542	366
	全国	526	513	550	610	620	727	564
かき	山形	163	239	189	207	216	237	203
	全国	249	285	255	280	280	324	270

注) 「山形」…東京都中央卸売市場における山形県産の
果実販売価格の平均（1～12月）

「全国」…東京都中央卸売市場における全国の
果実販売価格の平均（1～12月）

出典：東京都中央卸売市場年報

(2) 山形県産果実の品目別流通状況（東京都中央卸売市場）

		販売数量（t）						
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	5ヶ年平均 (H27～R1)
さくらんぼ	山形	1,377	1,922	1,790	1,601	1,071	1,238	1,552
	全国	1,775	2,331	2,178	1,916	1,431	1,561	1,926
	県産果実 の割合	78%	82%	82%	84%	75%	79%	80%
西洋なし	山形	2,510	2,679	2,310	2,097	2,287	2,034	2,377
	全国	3,294	3,346	3,011	2,629	2,955	2,643	3,047
	県産果実 の割合	76%	80%	77%	80%	77%	77%	78%
りんご	山形	6,348	5,350	5,661	4,236	4,270	4,528	5,173
	全国合計	67,268	65,455	68,142	58,404	61,485	57,725	64,151
	県産果実 の割合	9%	8%	8%	7%	7%	8%	8%
ぶどう	山形	2,104	2,376	2,021	1,876	1,948	1,755	2,065
	全国	14,731	14,857	14,649	13,984	14,072	13,385	14,459
	県産果実 の割合	14%	16%	14%	13%	14%	13%	14%
もも	山形	736	1025	996	853	1051	789	932
	全国	14,033	15,027	15,101	13,749	12,971	10,882	14,176
	県産果実 の割合	5%	7%	7%	6%	8%	7%	7%
かき	山形	624	809	894	706	777	642	762
	全国	22,864	22,071	22,938	20,395	20,641	19,483	21,782
	県産果実 の割合	3%	4%	4%	3%	4%	3%	4%

出典：東京都中央卸売市場年報

(3) 品目別の一世帯当たりの年間支出金額及び購入数量の推移

年次		H27	H28	H29	H30	R1	R2	5ヶ年平均 (H27～R1)
生鮮 果物	金額 (円)	36,141	36,845	36,052	35,061	35,742	36,957	35,968
	数量 (g)	77,965	76,236	75,060	71,231	71,998	71,697	74,498
なし	金額 (円)	1,801	1,870	1,817	1,673	1,750	1,598	1,782
	数量 (g)	3,365	3,827	3,686	3,354	3,092	2,497	3,465
りんご	金額 (円)	5,578	5,346	5,117	4,638	4,650	4,957	5,066
	数量 (g)	13,250	12,746	12,209	10,363	10,784	10,175	11,870
ぶどう	金額 (円)	2,560	2,593	2,664	2,724	2,874	3,107	2,683
	数量 (g)	2,440	2,422	2,309	2,272	2,432	2,262	2,375
もも	金額 (円)	1,191	1,219	1,166	1,005	1,034	1,012	1,123
	数量 (g)	1,609	1,590	1,419	1,299	1,205	1,074	1,424
かき	金額 (円)	1,099	1,158	1,068	1,010	1,021	1,110	1,071
	数量 (g)	2,954	2,815	2,955	2,440	2,395	2,369	2,712

出典：家計調査 一世帯当たり年間の品目別支出金額、購入数量及び平均価格（二人以上の世帯）
 表中の「なし」は、「西洋なし」を含む。

